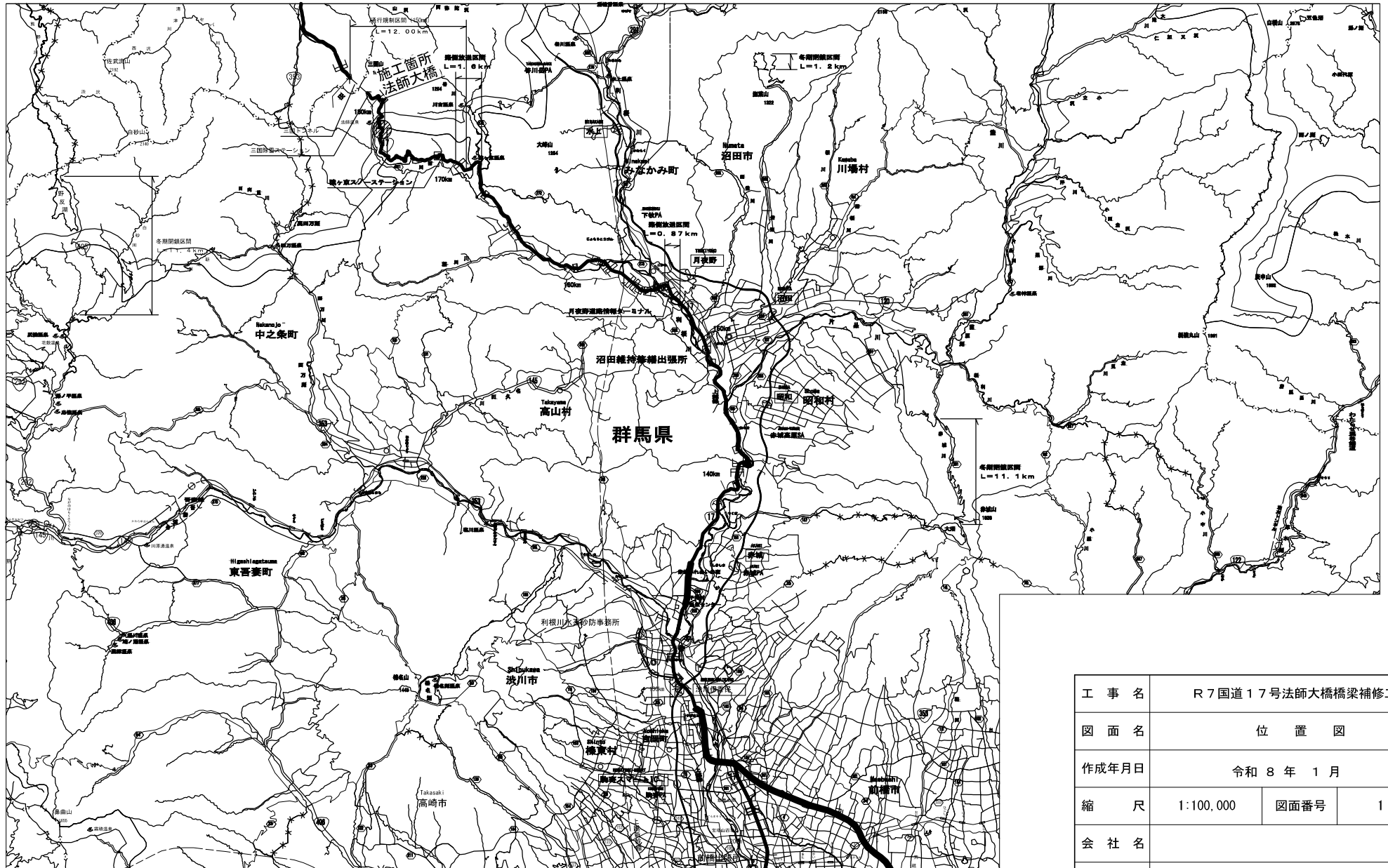
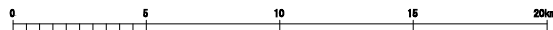


位置図



1:100,000

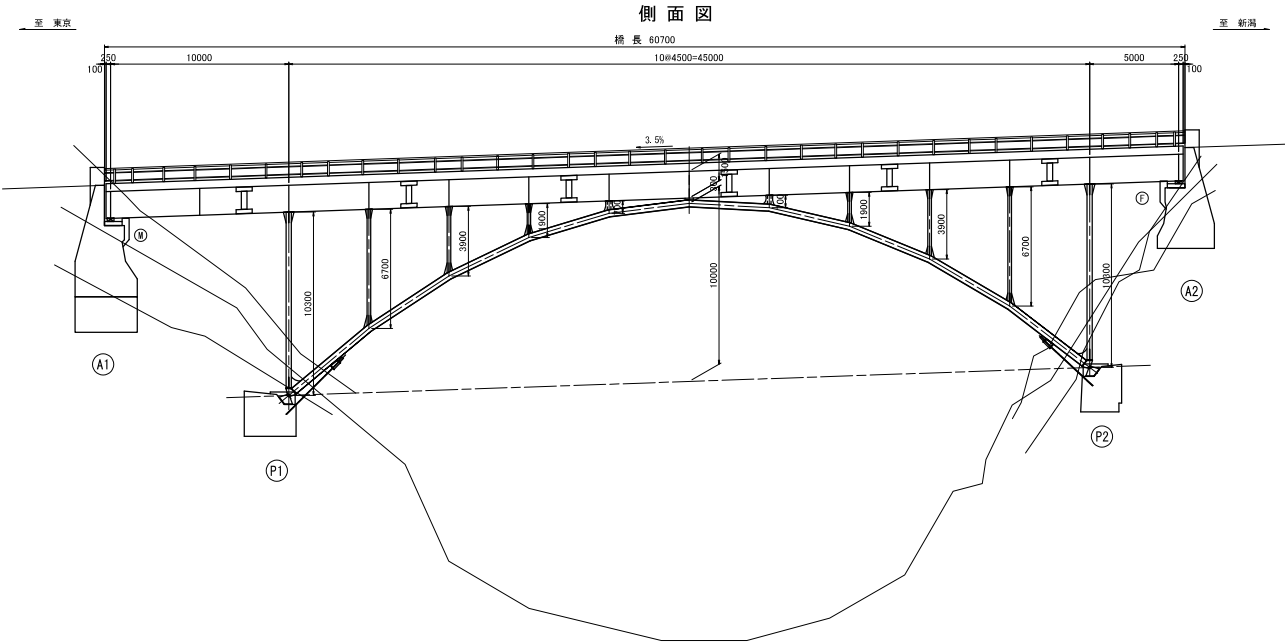


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工 事 名		R 7 国 道 1 7 号 法 師 大 橋 橋 梁 補 修 工 事			
図 面 名		位 置 図			
作成年月日		令 和 8 年 1 月			
縮 尺		1:100,000	図面番号	1 / 30	
会 社 名					
事 務 所 名		国 土 交 通 省 高 崎 河 川 国 道 事 務 所			
所 長	副 所 長		課 長	係 長	設 計

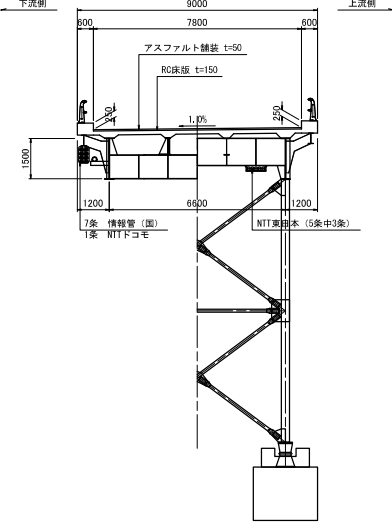
法師大橋 補修一般図 S=1:150

断面図 S=1:100



支点上構造高表

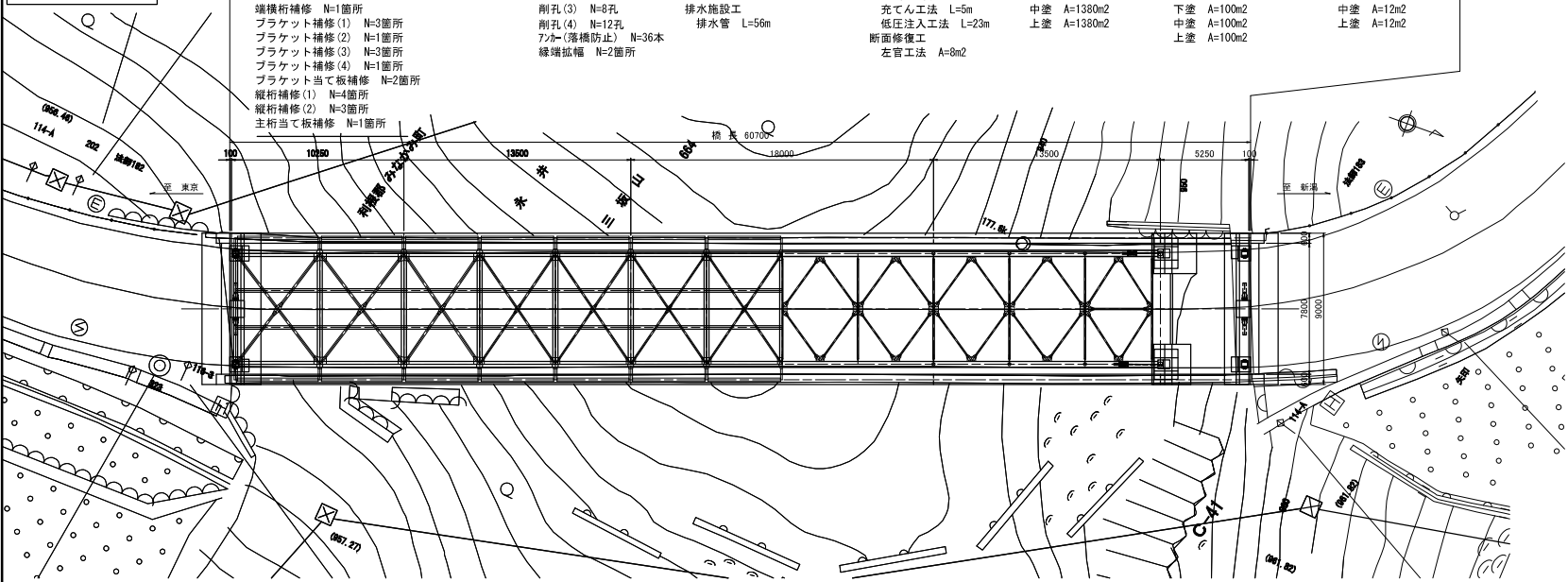
	下部工天端高
A1橋台	954.941
P1橋脚	944.943
P2橋脚	946.518
A2橋台	957.041



平面図

鋼桁工	橋梁支承工	橋梁付属物工	橋梁補修工	現場塗装工	橋梁塗装工 (Rc-I 増塗)	現場塗装工 (F-II)
鋼桁補強工	鋼桁支承工	落橋防止装置工 (1) 縁端拡幅	橋梁地覆補修工	橋梁塗装工 (Rc-I)	素地調整 A=100m2	素地調整 (F-II)
桁端補修 (1) N=1箇所	支承補修 N=1基	デッチング A=2m2	シー材 L=15m	素地調整 A=1380m2	素地調整 A=100m2	素地調整 A=12m2
桁端補修 (2) N=1箇所		削孔 (1) N=8孔	水切り L=2m	下塗 A=1380m2	下塗 A=100m2	ミルト A=12m2
桁端補修 (3) N=2箇所		削孔 (2) N=8孔	ひび割れ補修工	中塗 A=1380m2	下塗 A=100m2	下塗 A=12m2
端横桁補修 N=1箇所		削孔 (3) N=8孔	充てん工法 L=5m	下塗 A=1380m2	中塗 A=100m2	中塗 A=12m2
ブラケット補修 (1) N=3箇所		削孔 (4) N=12孔	低圧注入工法 L=23m	上塗 A=1380m2	中塗 A=100m2	上塗 A=12m2
ブラケット補修 (2) N=1箇所		7ノル (落橋防止) N=36本	断面修復工		上塗 A=100m2	
ブラケット補修 (3) N=3箇所		縁端拡幅 N=2箇所	左官工法 A=8m2			
ブラケット補修 (4) N=1箇所						
ブラケット当て板補修 N=2箇所						
縦桁補修 (1) N=4箇所						
縦桁補修 (2) N=3箇所						
主桁当て板補修 N=1箇所						

用地境界線



橋梁諸元

路線名	国道17号
橋長	60.700m
支間長	10.000m+45.000m+5.000m
設計荷重	TL-20 一等橋
斜角	直橋 (直角橋)
有効幅員	7.800m
全幅員	9.000m
上部工形式	3径間鋼ランガアーチ橋
下部工形式	重方式橋台2基、アーチ拱座2基
基礎形式	直接基礎4基
適用基準書	昭和31年 鋼道路橋設計示方書
竣工年	1956年 (昭和33年)
交差物件	谷

注記
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事
図面名	法師大橋 補修一般図
年月日	令和 8年 1月
縮尺	図示 図面番号 2 / 30
会社名	株式会社 復建技術コンサルタント
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所

法師大橋 補修図 (1) S=1:20

<鋼桁補強工(1)>

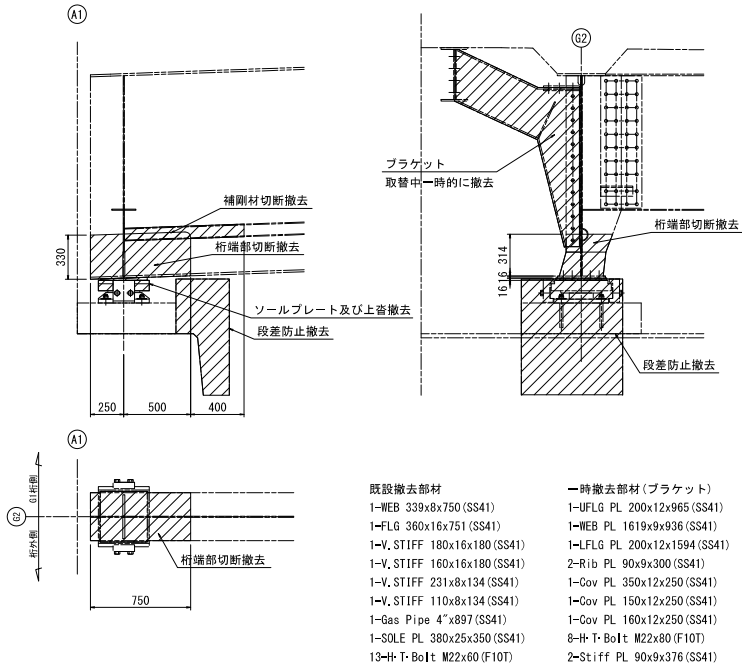
A1側主桁取替

側面図

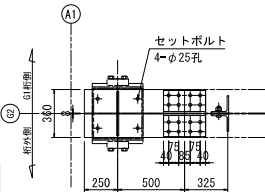
桁端取替え部詳細 S=1:10

支点垂直補剛材詳細 S=1:10

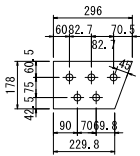
既設撤去図



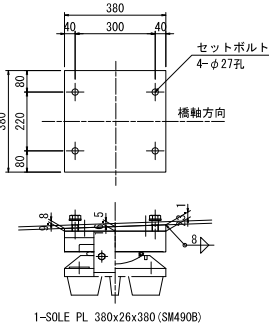
下フランジ詳細図



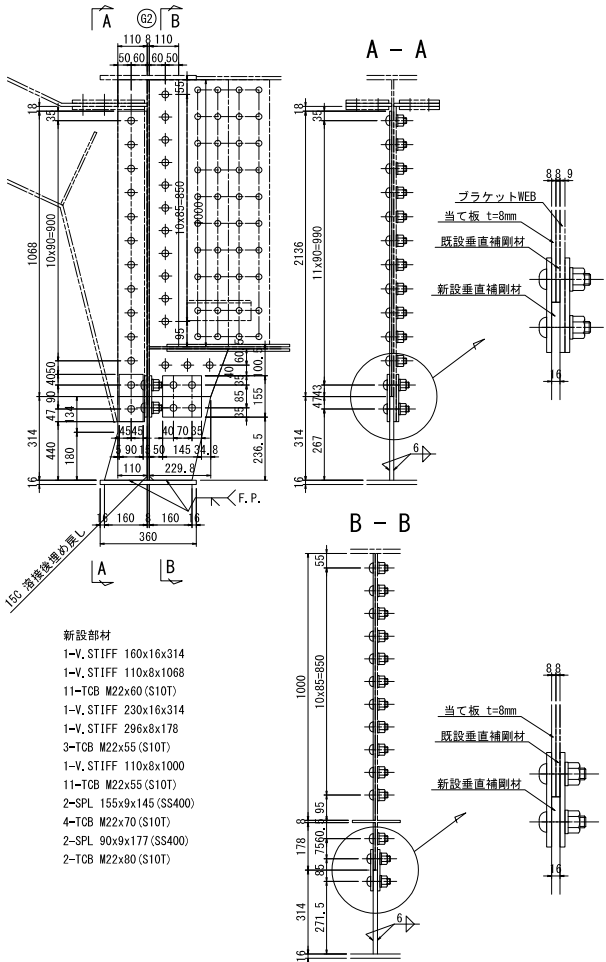
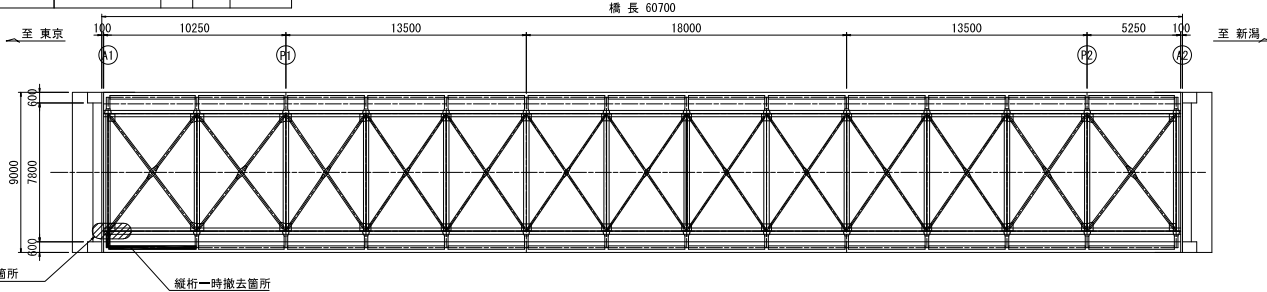
当て板詳細 S=1:10



ソールプレート詳細 S=1:10

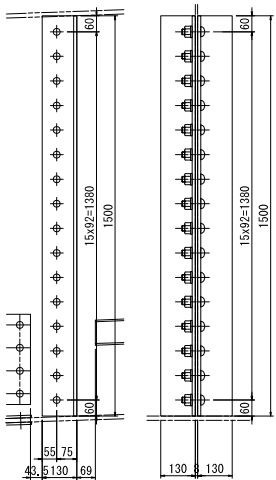


配置図



- 注記)
- 特記なき材質は、SM400Aとする。
 - 特記なきスカラーは全て3SRとする。
 - 現地取り付け部材の形状、鋼材加工及び取り付けは、現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更するときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
 - φは、TCB M22 (S10T) を示し、新規製作部材φ26.5孔、既設φ24.5孔とする。
 - 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。
- 補修箇所は現場にて確認すること。
- 本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります。

ジャッキアップ補強詳細 S=1:10



新設部材

- 2-L 130x130x12x1500 (SS400)
- 16-TCB M22x70 (S10T)

法師大橋 補修図 (2) S=1:20

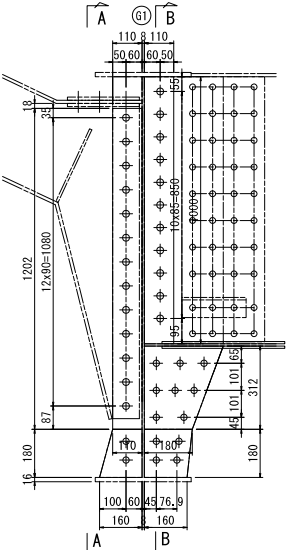
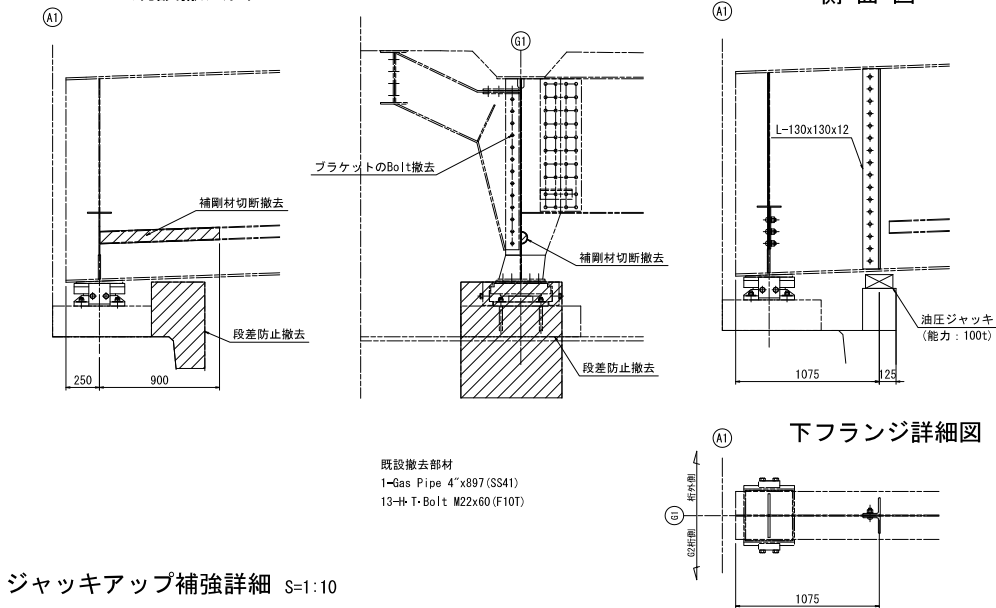
<鋼桁補強工(2)>

A1側主桁当て板補修

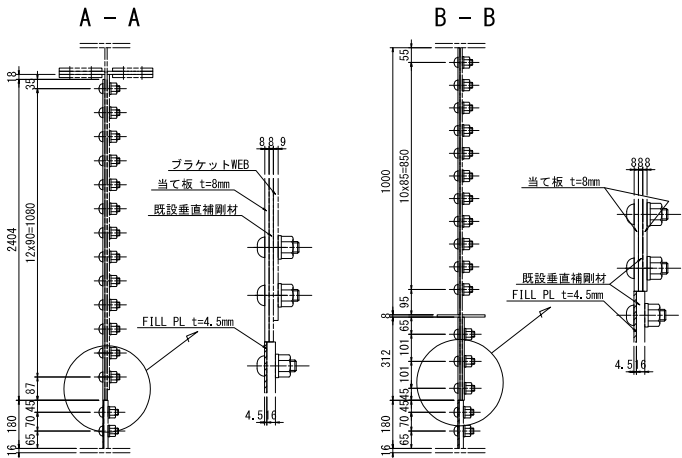
側面図

既設撤去図

支点垂直補剛材詳細 S=1:10



当て板詳細 S=1:10



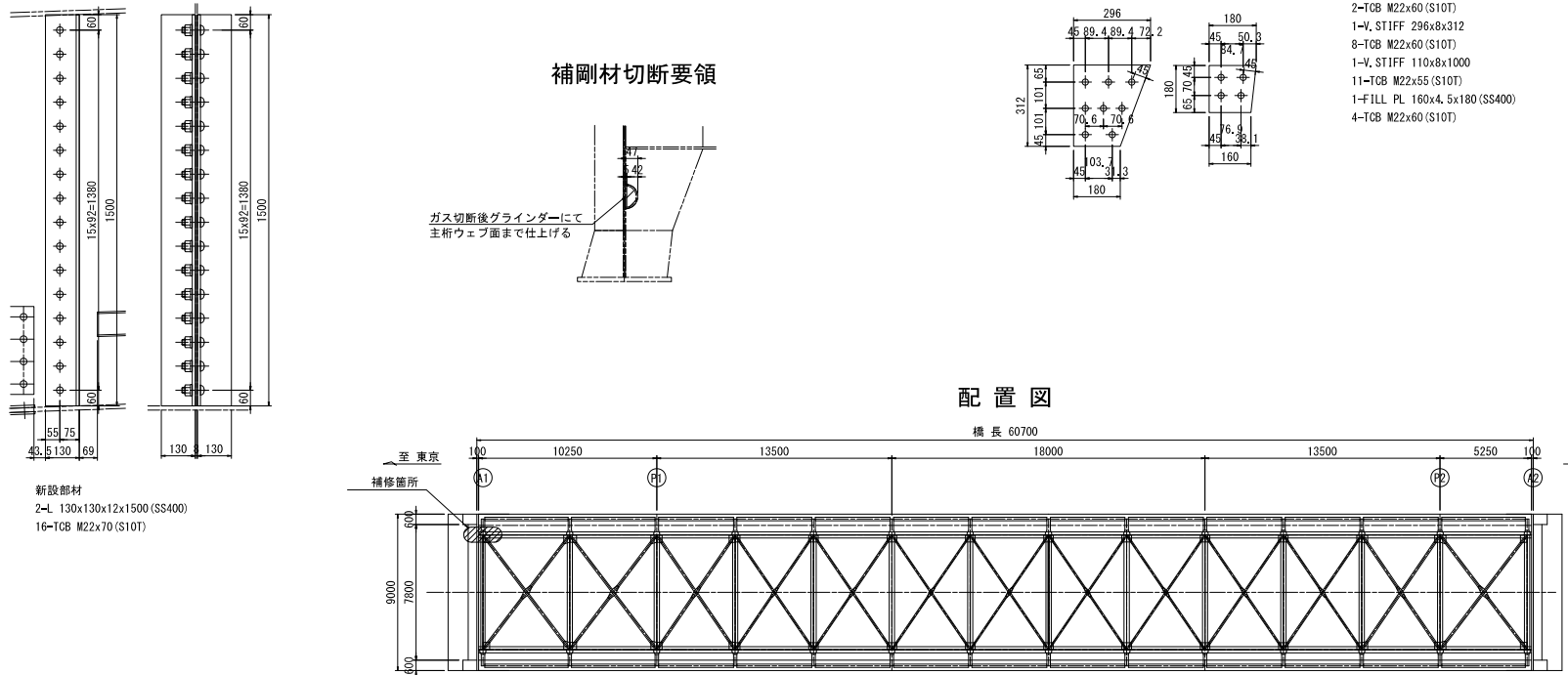
新設部材
1-V, STIFF 110x8x1202
13-TGB M22x60 (S10T)
1-FILL PL 160x4.5x180 (SS400)
2-TGB M22x60 (S10T)
1-V, STIFF 296x8x312
8-TGB M22x60 (S10T)
1-V, STIFF 110x8x1000
11-TGB M22x55 (S10T)
1-FILL PL 160x4.5x180 (SS400)
4-TGB M22x60 (S10T)

数量表 (桁端補修(2))

項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	1.56	
ガス切断切削仕上工	半円	n	0.90	
鋼部材撤去工	20kg以下/部材	部材	1	
現場孔明け工	孔径φ26.5 TGB	本	41	
鋼部材取付工	20kg以下/部材	部材	5	
	20kg以下40kg以下/部材	部材	2	
高力ボルト本締工	TGB M22 (S10T)	本	54	
現場塗装工	F-1塗後系	m2	0.49	

注記
1. 特記なき材質は、SM400Aとする。
2. 特記なきスカラーは全て35Rとする。
3. 現地取り付け部材の形状、鋼材加工及び取り付けは、
現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更する
ときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
4. 中は、TGB M22 (S10T) を示し、新規製作部材φ26.5、
既設φ24.5孔とする。
5. 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

配置図



工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図（2）		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮尺	図 示	図面番号	4 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

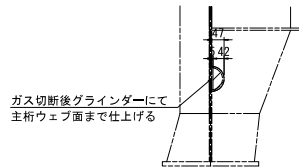
側面図

補剛材切断撤去

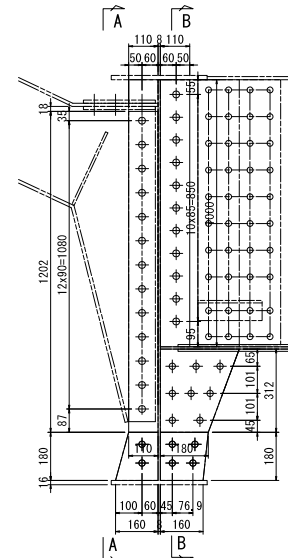
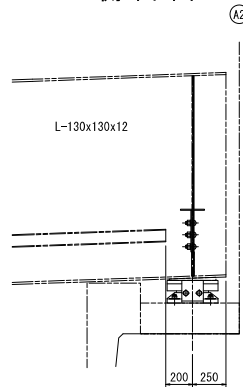
200 250

A2

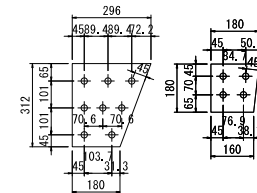
補剛材切断要領



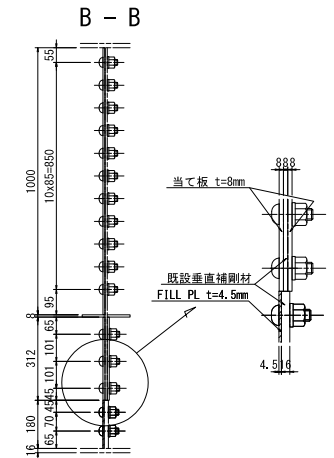
項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	1.74	
ガス切断附加工	半円	m	0.39	
鋼部材撤去工	20kg以下/部材	部材	2	
現場孔開工	孔径 φ26.5 / 部材	孔	50	
鋼部材取付工	20kg以下 / 部材	部材	10	
高力ボルト締結工	TOKI M22 (S10T)	本	76	
現場塗装工	F-11塗体系	m2	0.98	



当て板詳細 S=1:10



新設部材（製作数：G1、G2軒各1）
 1-V, STIFF 110x8x1202
 13-TCB M22x60 (S10T)
 1-FILL PL 160x4, 5x180 (SS400)
 2-TCB M22x60 (S10T)
 1-V, STIFF 296x8x312
 8-TCB M22x60 (S10T)
 1-V, STIFF 110x8x1000
 11-TCB M22x55 (S10T)
 1-FILL PL 160x4, 5x180 (SS400)
 4-TCB M22x60 (S10T)



注記)

1. 特記なき材質は、SM400Aとする。
2. 特記なきスラッパは全て35Rとする。
3. 現地取り付け金具の形状、鋼材加工及び取り付けは、現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更するときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
4. 寸法は、TGB M22 (S107) を示し、新規製作部材φ26.5 孔、既設φ24.5 孔とする。
5. 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。

補修箇所は現場にて確認すること。

縮小図は縮小図のため
断面は表示と異なります。

橋長 60700

至東京 100 10250 13500 18000 13500 5250 100 至新潟

P1 P2 P3

9000 7800 100

補修箇所

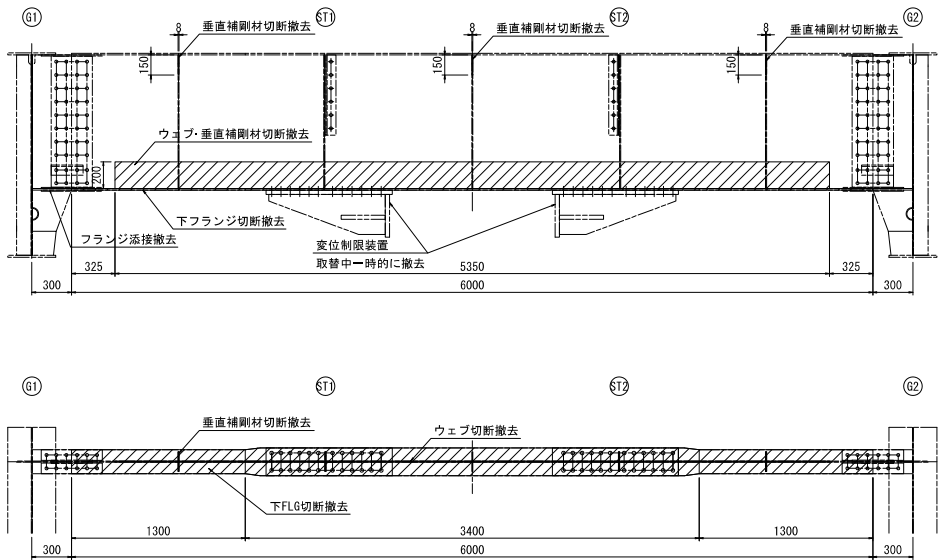
工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図 (3)		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮尺	図 示	図面番号	5 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図（４） S=1:20

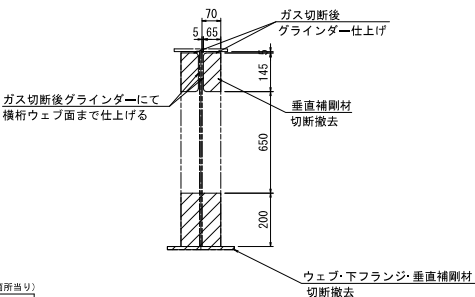
＜鋼桁補強工（４）＞

端横桁補修

既設撤去図



垂直補剛材切断要領



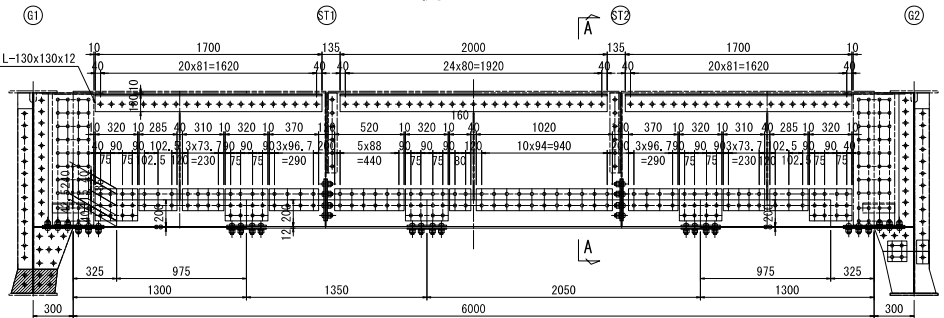
- 既設撤去部材
- 1-WEB 200x8x5350 (SS41)
 - 2-FLG 180x8x1300 (SS41)
 - 1-FLG 210x12x3400 (SS41)
 - 6-V, STIFF 70x8x200 (SS41)
 - 4-V, STIFF 75x8x200 (SS41)
 - 8-SPL 80x8x460 (SS41)
 - 24-H T-Bolt M22x60 (F10T)
 - 6-V, STIFF 70x8x150 (SS41)
- 一時撤去部材 (撤去数:2)
- 1-PL 210x32x945 (SM400A)
 - 1-PL 330x32x875 (SM400A)
 - 1-PL 300x32x350 (SM400A)
 - 1-PL 120x32x330 (SM400A)
 - 24-TCB M22x80 (S10T)
 - 4-B, N M12x120 (SUS304) (2-W付)
 - 1-PL 300x100x320 (GUM)

数量表（端横桁補修）

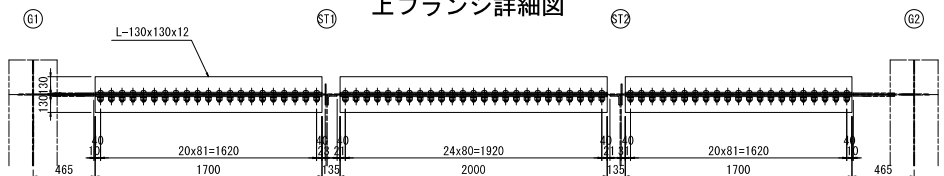
（1箇所当り）

項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	3.94	
ガス切断前仕上工	t=8mm	m	8.28	
ガス切断前仕上工	t=12mm	m	0.33	
鋼部材撤去工	200:G≤500kg以下/部材	部材	1	
高力ボルト撤去工	TBC M22 (S10T)	本	48	
鋼部材一時撤去工	200:G≤500kg以下/部材	部材	2	撤去後復旧
現場孔明工	孔径φ26.5 TCB	本	144	
鋼部材取付工	20:G≤40kg以下/部材	部材	4	
鋼部材取付工	40:G≤100kg以下/部材	部材	2	
高力ボルト本締工	TCB M22 (S10T)	本	321	
現場塗装工	F-11塗装系	m2	1.35	

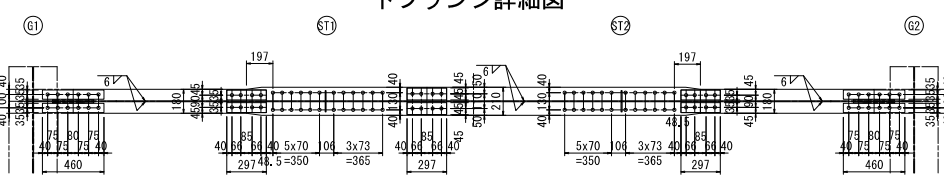
側面図



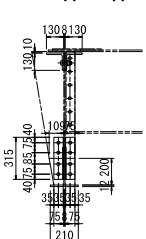
上フランジ詳細図



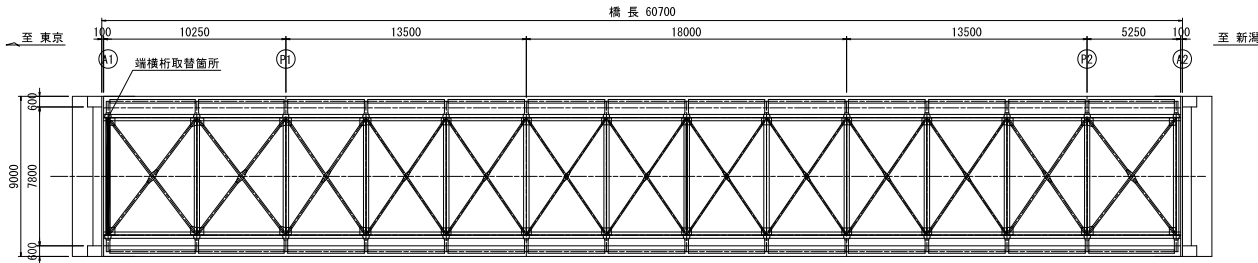
下フランジ詳細図



A - A



配置図



- 新設部材
- 2-WEB 200x8x975
 - 1-WEB 200x8x1350
 - 1-WEB 200x8x2050
 - 10-SPL 240x9x320 (SS400)
 - 4-SPL 165x9x285 (SS400)
 - 4-SPL 165x9x310 (SS400)
 - 4-SPL 165x9x370 (SS400)
 - 2-SPL 165x9x520 (SS400)
 - 2-SPL 165x9x160 (SS400)
 - 2-SPL 165x9x1020 (SS400)
 - 142-TCB M22x65 (S10T)
- 2-FLG 180x8x1300
 - 1-FLG 210x12x1350
 - 1-FLG 210x12x2050
 - 4-SPL 75x9x297 (SS400)
 - 2-SPL 170x9x297 (SS400)
 - 2-FILL PL 170x4.5x149 (SS400)
 - 2-SPL 90x9x297 (SS400)
 - 1-SPL 200x9x297 (SS400)
 - 24-TCB M22x65 (S10T)
 - 8-SPL 70x9x460 (SS400)
 - 24-TCB M22x60 (S10T)
- 2-V, STIFF 109x8x200
 - 2-V, STIFF 75x8x200
 - 8-SPL 70x9x315 (SS400)
 - 16-TCB M22x65 (S10T)
- 2-L 130x130x12x1700 (SS400)
 - 1-L 130x130x12x2000 (SS400)
 - 67-TCB M22x70 (S10T)

- 注記
- 特記なき材質は、SM400Aとする。
 - 特記なきスカラーは全て35Rとする。
 - 現地取り付け部材の形状、鋼材加工及び取り付けは、現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更するときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
 - φは、TCB M22 (S10T) を示し、新規製作部材φ26.5孔、既設φ24.5孔とする。
 - 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。補修箇所は現場にて確認すること。本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります。

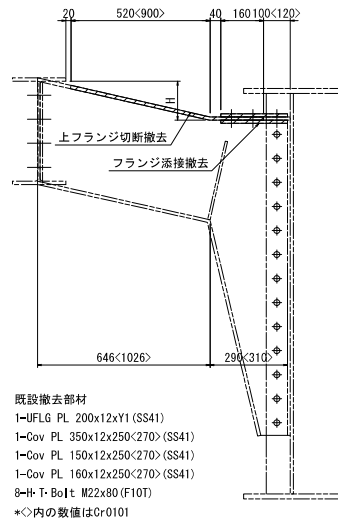
工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事
図面名	法師大橋 補修図（４）
作成年月日	令和 8 年 1 月
縮尺	図示 図面番号 6 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所

法師大橋 補修図（５） S=1:10

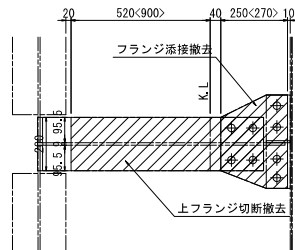
<鋼桁補強工（５）>

上フランジ取替

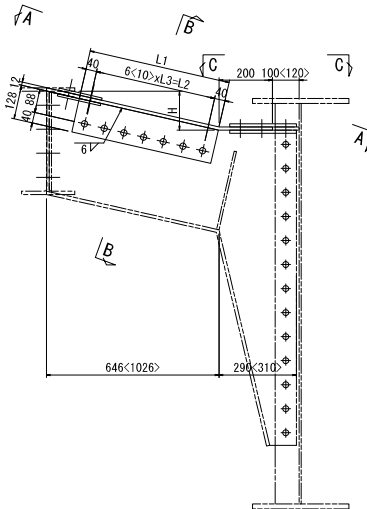
既設撤去図



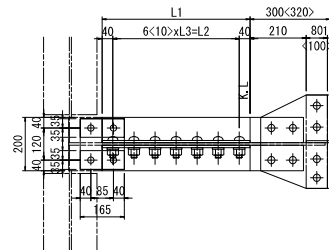
平面図



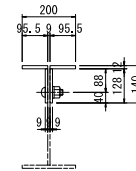
側面図



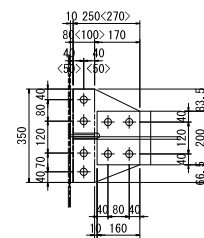
A - A



B - B



C - C

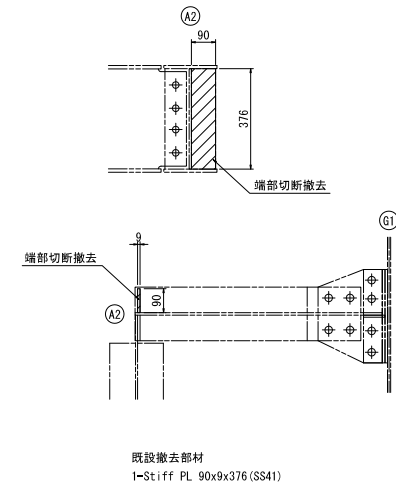


新設部材（製作数：各1）
2-UFLG PL 96x12xY1
2-WEB PL 128x9xY2
7<1>-TCB M22x65 (S10T)
1-Cov PL 350x12x250<270> (SS400)
1-Cov PL 150x12x250<270> (SS400)
1-Cov PL 160x12x250<270> (SS400)
8-TCB M22x75 (S10T)
1-SPL 190x9x165 (SS400)
2-SPL 70x9x165 (SS400)
4-TCB M22x65 (S10T)
*◇内の数値はCr0101

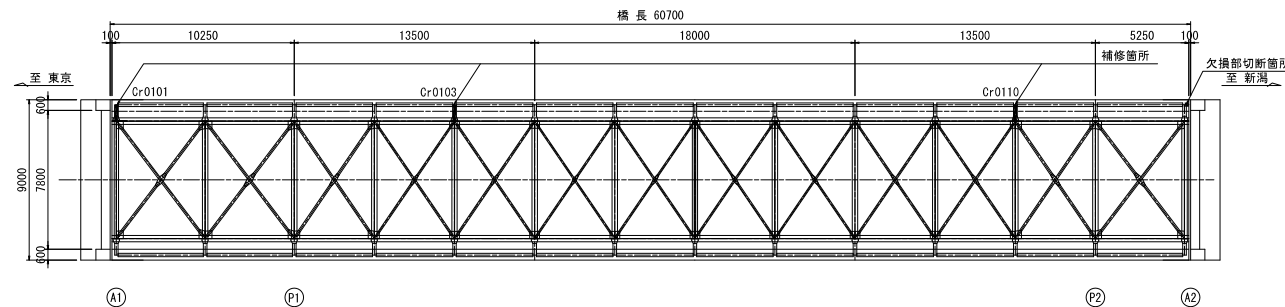
寸法表

	H	L1	L2	L3	Y1	Y2
Cr0101	104	904.7	824.7	82.5	1105	905
Cr0103	209	546.8	466.8	77.8	747	547
Cr0110	146	533.3	453.3	75.5	733	533

欠損部切断



配置図



数量表（ブラケット補修（1））

（3箇所当り）

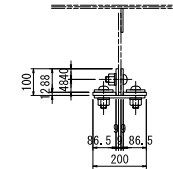
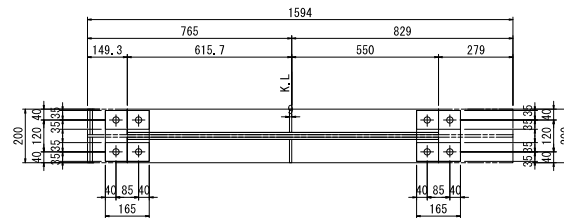
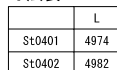
項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	1.18	
ガス切断南仕上工	t=9mm	m	0.56	
	t=12mm	m	0.73	
鋼部材撤去工	20kg以下/部材	部材	1	
	20kg≧40kg以下/部材	部材	3	
現場孔明工	孔径φ26.5 TCB	本	31	
鋼部材取付工	20kg以下/部材	部材	30	
高力ボルト本換工	TCB M22 (S10T)	本	61	
現場塗装工	F-11塗装系	m2	0.40	

注記

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 特記なきスカラーは全て35Rとする。
- 現地取り付け部材の形状、鋼材加工及び取り付けは、現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更するときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
- φは、TCB M22 (S10T) を示し、新規製作部材φ26.5孔、既設φ24.5孔とする。
- 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。補修箇所は現場にて確認すること。本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります。

工事名	R7 国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図（５）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮尺	図示	図面番号	7 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

下フランジ・リブ取替



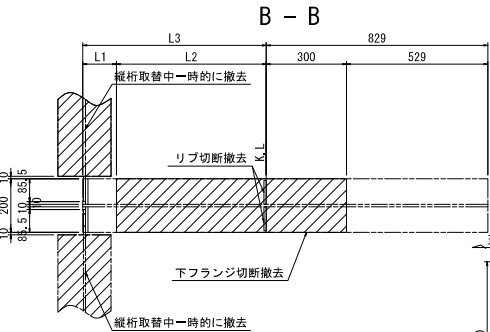
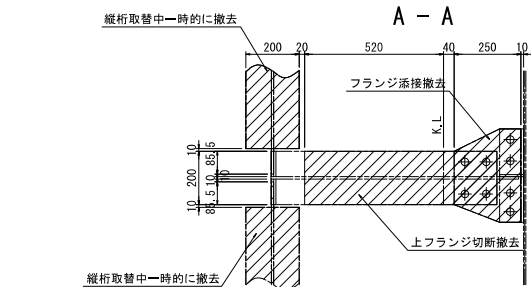
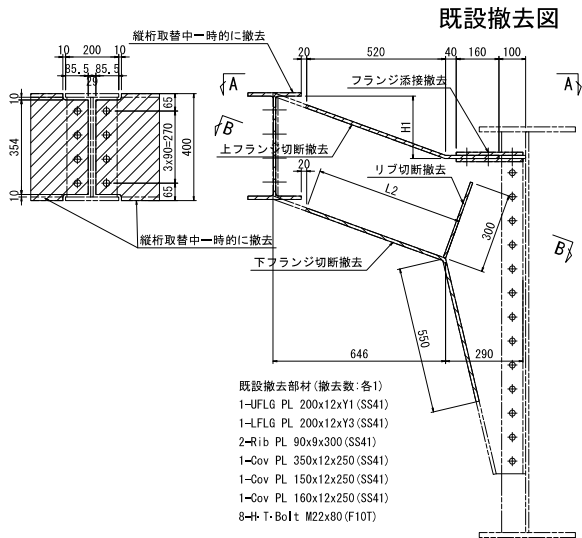
工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図 (6)		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮尺	図 示	図面番号	8 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図（７） S=1:10

<鋼桁補強工（７）>

上下フランジ・リブ取替

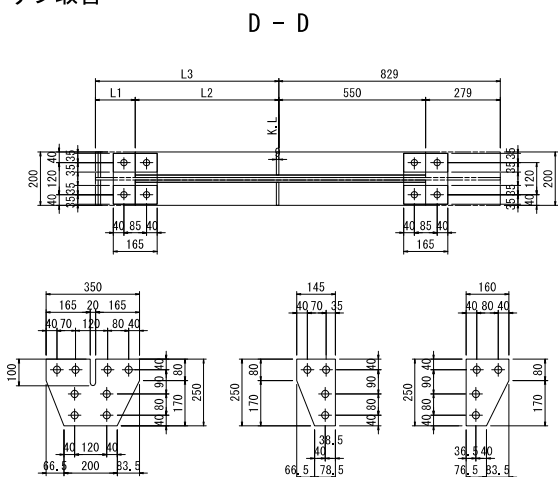
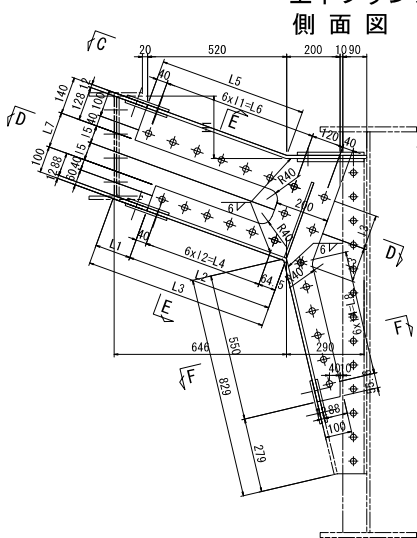
側面図



一時撤去部材（縦桁）（撤去数：各1）
1-H 400x200x8x13xL (SS41)
8-H T-Bolt M22x60 (F10T)

寸法表

	L
St0406	4475
St0407	4475
St0409	4475
St0410	4487



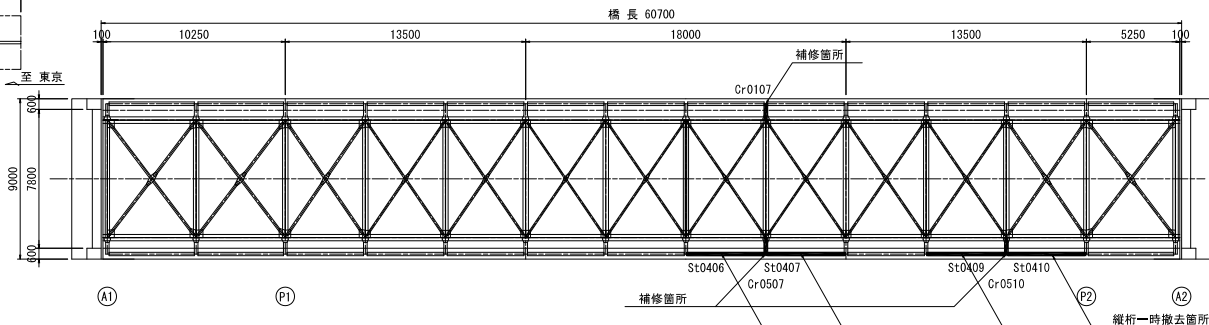
新設部材（製作数：各1）

2-UFLG PL 87x12xY1
2-WEB PL H2x9xY2
2-LFLG PL 87x12xY3
2-Rib PL 87x9x300
22-TCB M22x65 (S10T)
1-Cov PL 350x12x250 (SS400)
1-Cov PL 145x12x250 (SS400)
1-Cov PL 160x12x250 (SS400)
8-TCB M22x75 (S10T)
1-SPL 190x9x165 (SS400)
2-SPL 70x9x165 (SS400)
4-TCB M22x65 (S10T)
2-SPL 190x9x165 (SS400)
4-SPL 70x9x165 (SS400)
8-TCB M22x65 (S10T)

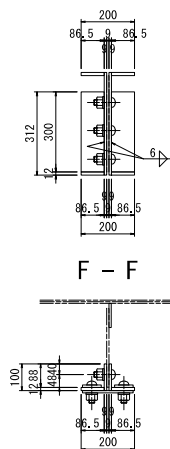
寸法表

	H1	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	I1	I2	I3	I4	I5	Y1	Y2	Y3	H2
Cr0107	234	134.0	552.9	686.9	448.4	553.5	580.1	134.5	466.4	96.7	89.7	129.7	93.3	67.2	754	768	1103	1113
Cr0507	310	139.7	576.6	716.4	471.8	577.3	639.5	119.6	465.5	106.6	94.4	119.6	93.1	59.8	777	781	1127	1174
Cr0510	375	145.8	601.0	746.8	496.0	601.4	690.9	105.5	464.4	115.1	99.2	110.7	92.9	52.7	801	791	1151	1126

配置図



E - E



数量表（ブラケット補修（3））

項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	2.70	
ガス切断削仕上げ工	t=9mm	m	1.80	
	t=12mm	m	5.71	
鋼部材撤去工	40<G≦100kg以下/部材	部材	3	
高力ボルト撤去工	HTB M22 (F10T)	本	32	
鋼部材一時撤去工	200<G≦500kg以下/部材	部材	4	撤去後戻
現場孔明工	孔径φ26.5 TCB	本	84	
鋼部材取付工	20kg以下/部材	部材	60	
高力ボルト本締工	TCB M22 (S10T)	本	126	
	HTB M22 (F10T)	本	32	
現場塗装工	F-11塗膜系	m2	0.94	

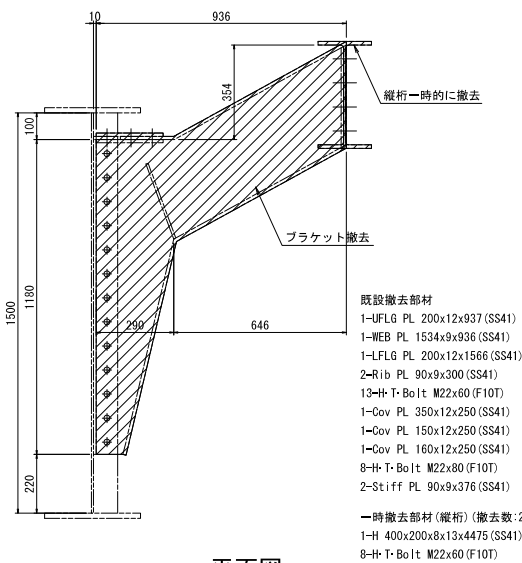
注記）

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 特記なきスラップは全て35Rとする。
- 現地取り付け部材の形状、鋼材加工及び取り付けは、現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更するときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
- ◆は、TCB M22 (S10T) を示し、新規製作部材φ26.5孔、既設φ24.5孔とする。
- 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

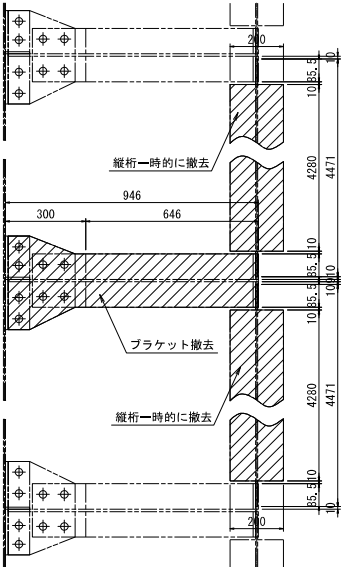
工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事			
図面名	法師大橋 補修図（7）			
作成年月日	令和 8年 1月			
縮尺	図 示	図面番号	9 / 30	
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ			
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所			

法師大橋 補修図（８） S=1:10
＜鋼桁補強工（８）＞
全取替

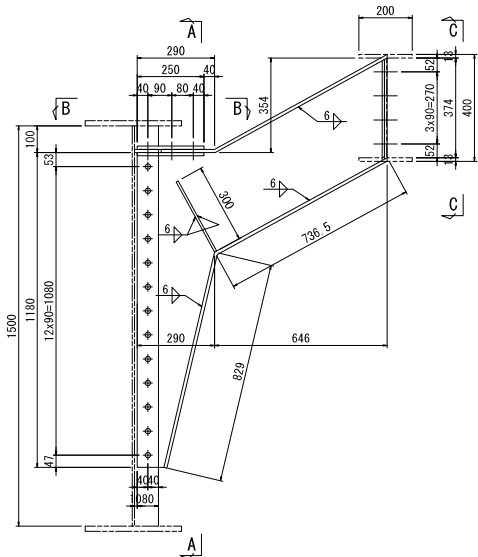
既設撤去図



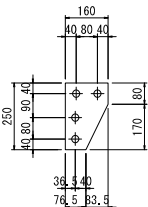
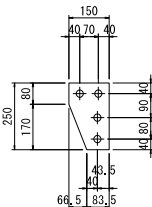
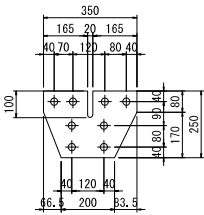
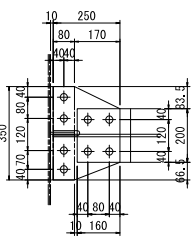
平面図



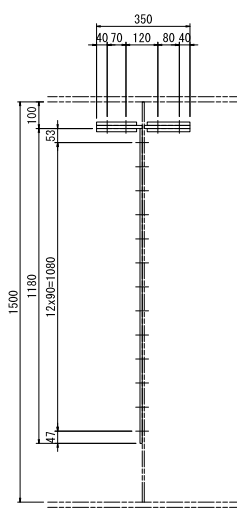
側面図



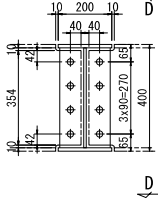
B - B



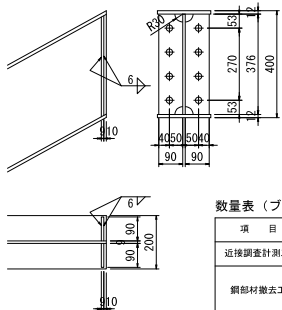
A - A



C - C



D - D



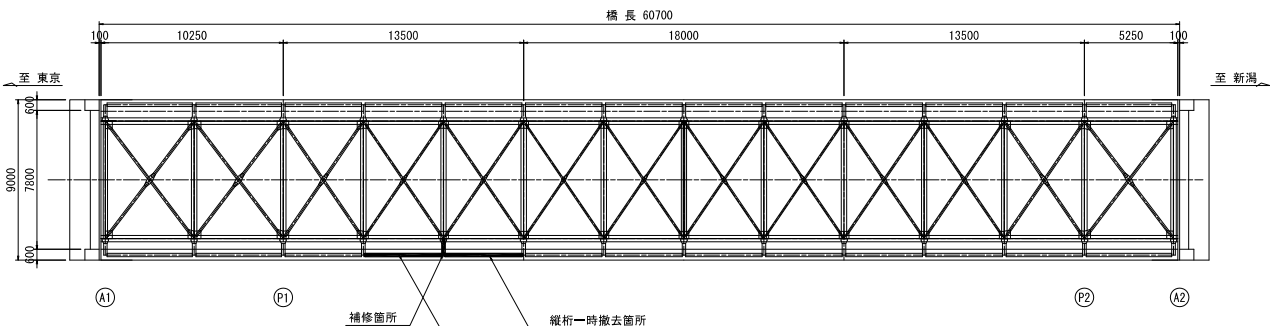
数量表（ブラケット補修(4)） (1箇所当り)

項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	1.08	
鋼部材撤去工	20<G≤40kg以下/部材	部材	1	
	40<G≤100kg以下/部材	部材	1	
高力ボルト撤去工	HTB M22 (F10T)	本	16	
鋼部材一時撤去工	200<G≤500kg以下/部材	部材	2	撤去後戻
鋼部材取付工	20kg以下/部材	部材	8	
	20<G≤40kg以下/部材	部材	2	
高力ボルト本締工	TCB M22 (S10T)	本	21	
	HTB M22 (F10T)	本	16	
現場塗装工	F-11塗膜系	m2	0.29	

新設部材
1-UFLG PL 200x12x937
1-WEB PL 1534x9x936
1-LFLG PL 200x12x1566
2-Rib PL 90x9x300
13-TCB M22x55 (S10T)
1-Cov PL 350x12x250 (SS400)
1-Cov PL 150x12x250 (SS400)
1-Cov PL 160x12x250 (SS400)
8-TCB M22x80 (S10T)
2-Stiff PL 90x9x376
※16-HTB M22x85 (F10T) (頭締め)

- 注記)
- 特記なき材質は、SM400Aとする。
 - 特記なきスカラーは全て3SRとする。
 - 現地取り付け部材の形状、鋼材加工及び取り付けは、現地再調査の上最終決定すること。なお、寸法を変更するときは、必要に応じて応力計算を行うこと。
 - ※は、TCB M22 (S10T)を示し、新規製作部材φ26.5孔、既設φ24.5孔とする。
 - 既設材料のボルト孔全て現場孔明をすること。
 - ※印材料は補修図(10)にて計上。
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

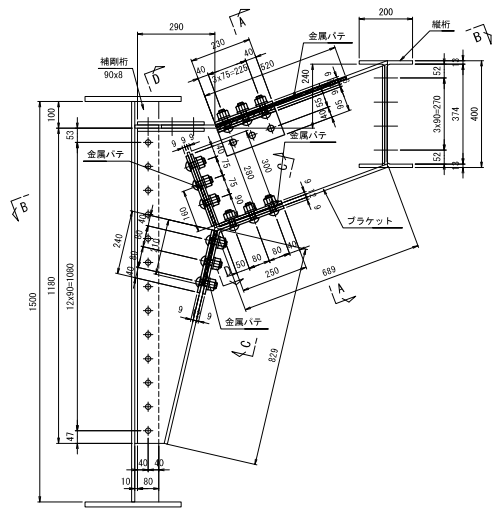
配置図



工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事
図面名	法師大橋 補修図（８）
作成年月日	令和 8年 1月
縮尺	図示 図面番号 10 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
事務所名	国土交通省 高嶋河川国道事務所

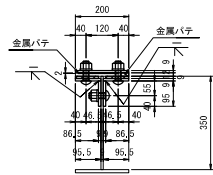
法師大橋 補修図（９） S=1:10
＜鋼桁補強工（９）＞

側面図



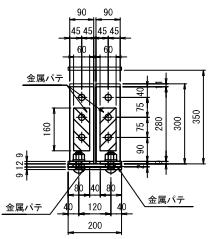
断面図

A - A



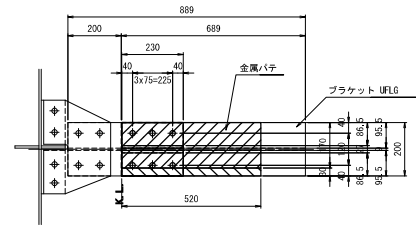
断面図

D - D



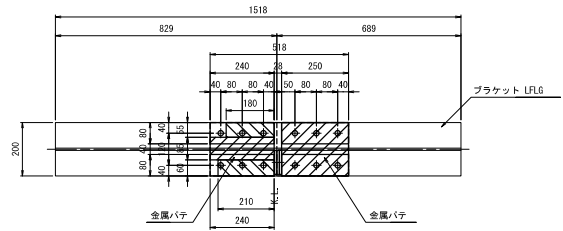
平面図

B - B

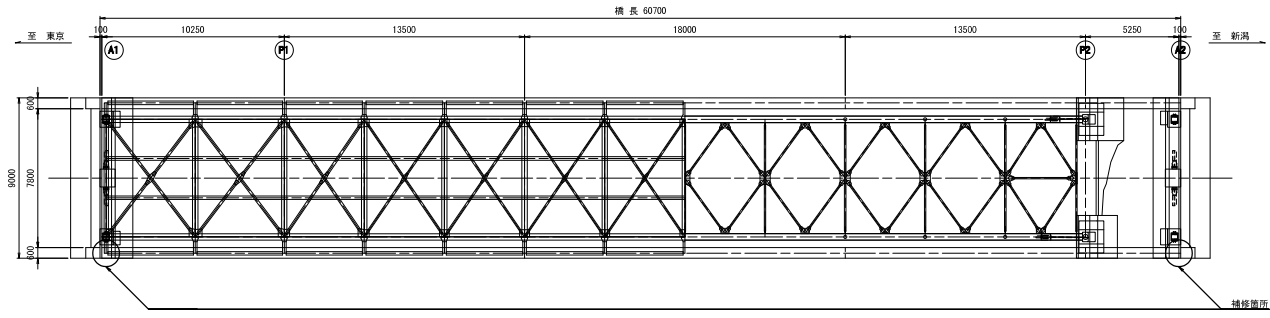


平面図

C - C



配置図



減肉 170x520x2 (平均)
減肉 85x240x2 (平均)
減肉 200x250x2 (平均)
欠損 520x30x12
欠損 160x60x9
欠損 180x55x12
欠損 210x60x12

新設材料
製作数：2
1-PL 200x9x230 (S400)
2-PL 96x9x230 (S400)
2-PL 95x9x230 (S400)
1-PL 200x9x518 (S400)
2-PL 80x9x250 (S400)
2-PL 80x9x240 (S400)
2-PL 90x9x280 (S400)
2-FILL PL 87x9x230 (S400)
24-TGB W22x65 (S10T)

数量表（ブラケット当て板補修）

(2箇所当り)

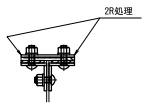
項目	単位	合計	備考
近接調査計測工	m2	0.98	
芯出し裏地調整工	m2	0.74	
不陸調整工	m3	0.003	比重2.3
現場孔明工	本	48	既設横桁ウェブ、下下フランジ
鋼部材取付工	部材	28	
高力ボルト本締工	本	48	
現場塗装工	m2	0.98	F-11塗装系

凡例

- 不陸調整あり
- 不陸調整なし

角部曲面仕上げ図

当て板



注記)

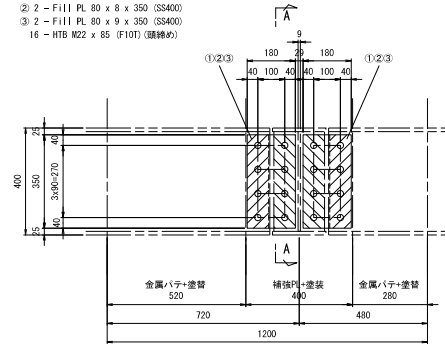
- 現場施工・製作にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
- 特記なきボルト孔明け径は全てφ24.5とする。
- 減肉部補修
 - 腐食部をグラインダー等にて仕上げる。
 - 金属ハテ材を充填し、補修を行う。
 - ボルト接合面は不陸調整を行うこと。
- 上部工塗装工の前に当て板補強を行うこと。
塗装面積増加分については、本当て板補強では、ボルトの増分のみを考慮する。
- プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。
- 本設計ではボルト施工可能な範囲で当て板を設定しているが、ボルト施工可能かどうか現地確認のうえ当て板範囲を決定すること。
- 現場孔明けを先行し、その後に金属ハテ材やボルト締めを行うこと。
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります。

工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図（9）		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮尺	図示	図面番号	11 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高嶋河川国道事務所		

<鋼桁補強工（10）>

縱桁補修材料:4箇所

- ① 4 - Spl PL 180 x 12 x 350 (SS400)
- ② 2 - Fill PL 80 x 8 x 350 (SS400)
- ③ 2 - Fill PL 80 x 9 x 350 (SS400)
- 16 - HTB M22 x 85 (F10T) (頭締め)



(4箇所当り)

項 目	規格等	単位	数 量	備 考
近接調査計測工		m2	1.44	
	t=8mm	m	3.20	
ガス切断切削仕上工	t=13mm	m	1.26	
鋼部材搬入工	20kg以下/部材	部材	4	
芯出し兼地盤調査工		m2	0.68	
不陸調査工	エポキシ樹脂 (金庫粉入り)	m3	0.001	
現場照明工	孔径φ7.5、下部材	本	32	
鋼部材取付工	20kg以下、下部材	部材	32	
高圧水圧本橋工	H1B M22/10T	本	64	
現場塗装工	F-1塗装系	m2	1.44	

橋長 60700

100 10250 13500 18900 13500 5250 100

至東京 至新

9000 7500 600

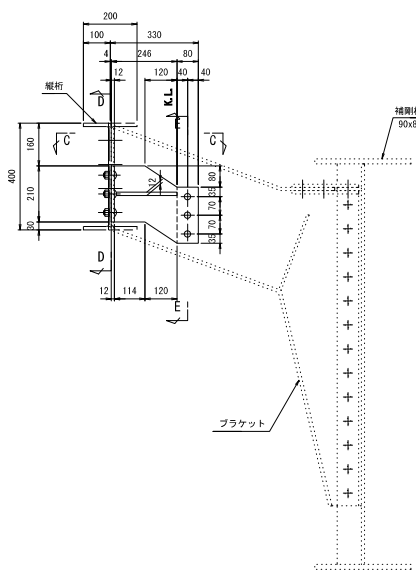
A1 P1 P2 A2

補修箇所

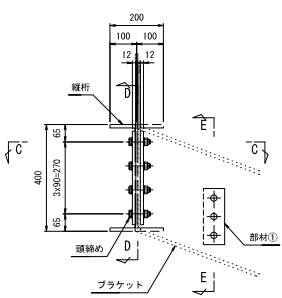
- | | | | |
|-------|-------------------|------|---------|
| 工事名 | R7国道17号法師大橋橋梁補修工事 | | |
| 図面名 | 法師大橋 補修図(10) | | |
| 作成年月日 | 令和 8年 1月 | | |
| 縮尺 | 図 示 | 図面番号 | 12 / 30 |
| 会社名 | 株式会社オリエンタルコンサルタンツ | | |
| 事務所名 | 国土交通省 高崎河川国道事務所 | | |

法師大橋 補修図 (1 1) S=1:10
＜鋼桁補強工 (1 1) ＞

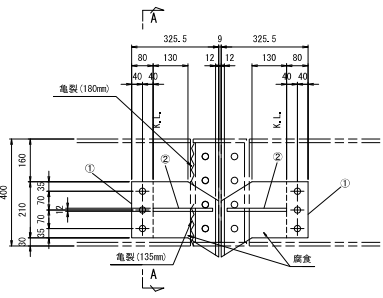
断面図
A - A



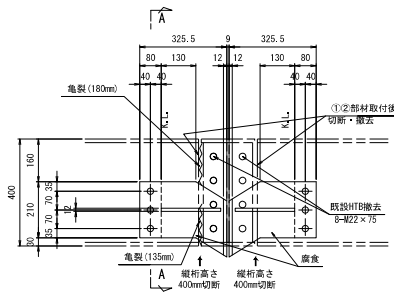
断面図
B - B



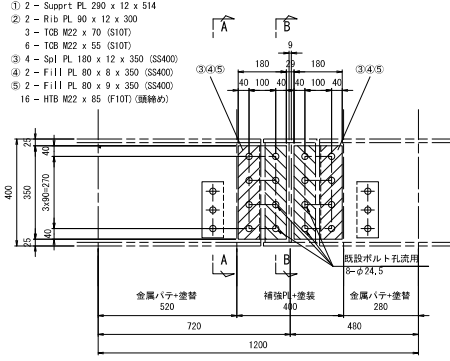
側面図 (部材①②取付)
E - E



側面図 (縦桁切断)
E - E

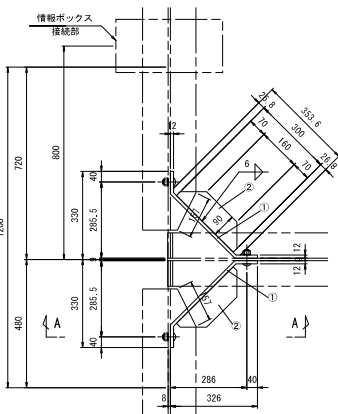


側面図 (部材③④⑤)
D - D

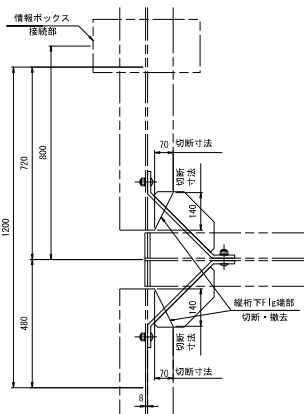


- 縦桁補修材料:3箇所
- ① 2 - Supp PL 290 x 12 x 514
 - ② 2 - Rib PL 90 x 12 x 300
 - ③ 1 - TCB M22 x 70 (S10T)
 - ④ 2 - TCB M22 x 55 (S10T)
 - ⑤ 4 - Spl PL 180 x 12 x 350 (SS400)
 - ⑥ 2 - F11 PL 80 x 8 x 350 (SS400)
 - ⑦ 2 - F11 PL 80 x 9 x 350 (SS400)
 - ⑧ 16 - HTB M22 x 65 (F10T) (頭締め)

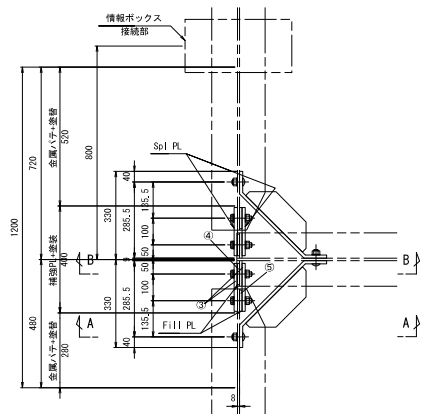
平面図 (部材①②取付)



平面図 (縦桁切断)

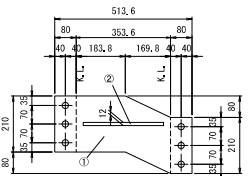


平面図 (部材③④⑤取付)
C - C

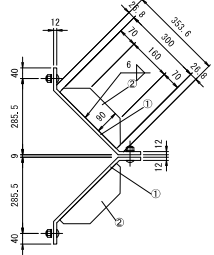


部材展開図

側面図



平面図

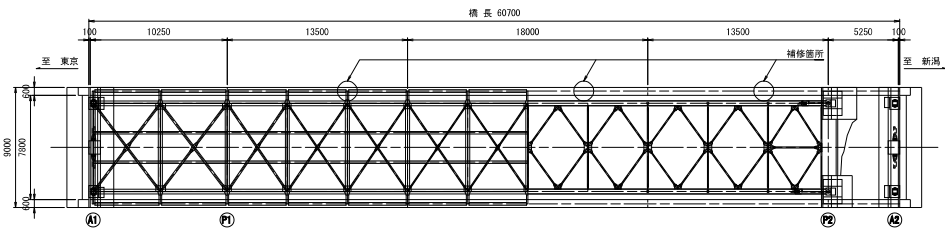


数量表 (縦桁補修 (2))

(3箇所当り)

項目	規格等	単位	数量	備考
近接調査計測工		m2	2.28	
ガス切断切断仕上工	t=8mm	m	2.40	
	t=13mm	m	0.94	
鋼部材搬入工	20kg以下/部材	部材	3	
芯出し素地調整工		m2	0.87	
不陸調整工	エポキシ樹脂 (金属粉入り)	m3	0.001	
現場孔明け工	孔径φ24.5 TCB	本	27	
	孔径φ24.5 HTB	本	24	
鋼部材取付工	20kg以下/部材	部材	36	
ボルト本締め工	TCB M22 (S10T)	本	27	
	HTB M22 (F10T)	本	48	
現場塗装工	F-11塗装系	m2	2.28	

配置図 S=1:200



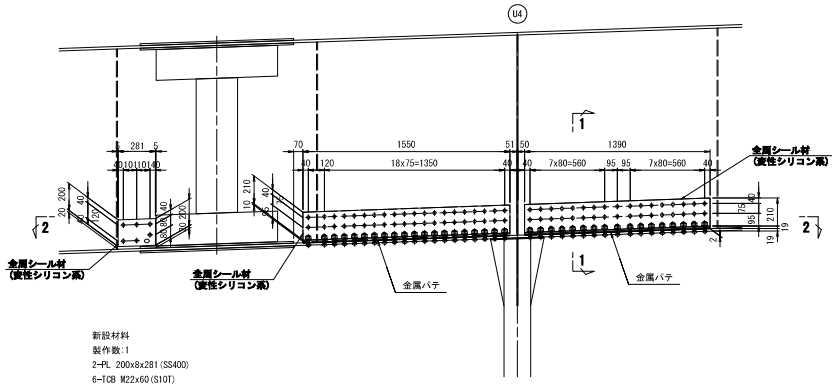
注記)

- 特記なき材質はすべてSM400Aとする。
 - 中印はTCB M22 (S10T) 及びHTB (F10T) を示しφ24.5孔とする。
 - 事前に現場調査、取合い確認の上、製作・施工に反映のこと。
 - プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。
 - 現場孔明けを先行し、その後に金属バテ材やボルト締めを行うこと。
- 補修箇所は現場にて確認すること。
- 本図面は縮小図のため、縮尺は表示と異なります。

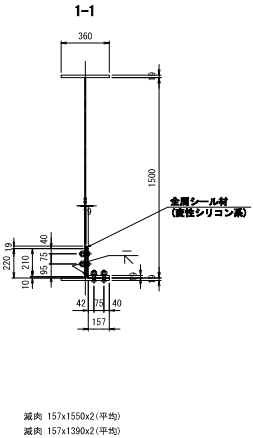
工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図 (1 1)		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮尺	図 示	図面番号	13 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図 (1 2) S=1:20
<鋼桁補強工 (1 2) >

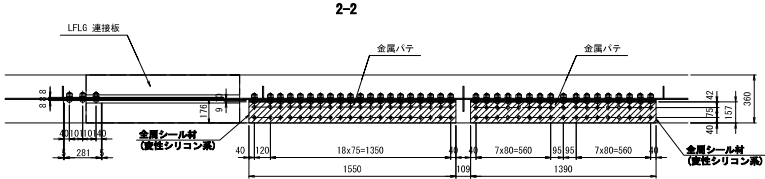
正面図



断面図

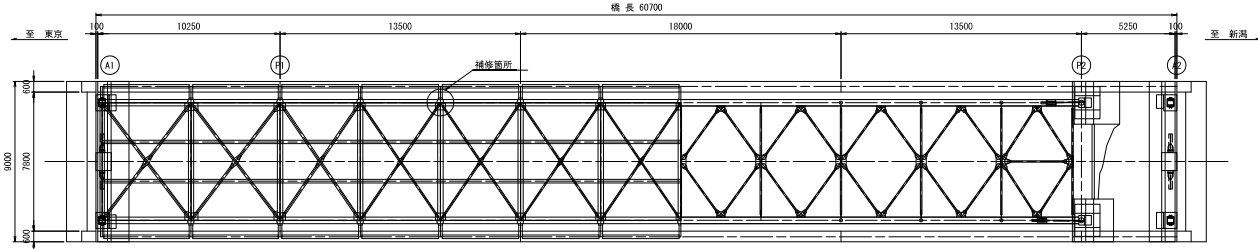


平面図



数量表 (主桁当て板補修)		(1箇所当り)		
項 目	単位	合計	備考	
近接調査計測工	n2	1.99		
芯出し素地調整工	n2	1.22		
不陸調整工	エポキシ樹脂 平均厚t=2mm	0.001	比重2.3	
金属シール工	変性シリコン系	0.002		
現場孔明工	φ24.5孔	t=9 水平向き	80	既設主桁ウェブ、下フランジ
		t=19 下向き	74	
鋼部材取付工	20kg以下/部材	部材	2	
	20<G≤40kg以下/部材	部材	6	
高力ボルト未締工	TGB M22 (S10T)	本	154	
現場塗装工	n2	1.99	F-11塗装系	

配置図

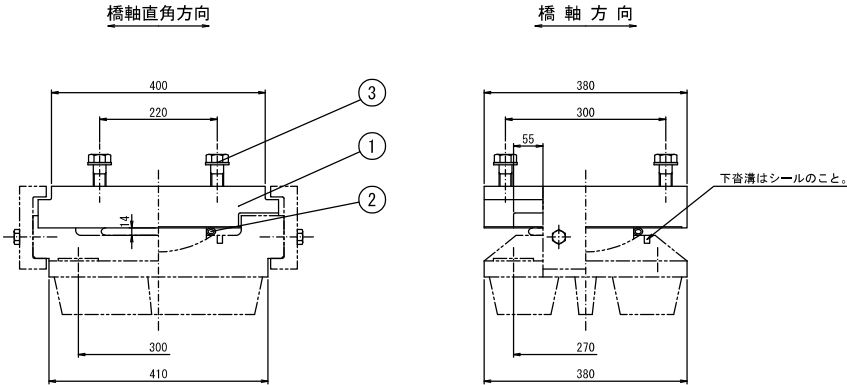


注記)
1. 現場施工・製作にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
2. 特記なきボルト孔明け径は全てφ24.5とする。
3. 減肉部補修
1) 腐食部をグラインダ等にて仕上げる。
2) 金属パテ材を充填し、補修を行う。
3) ボルト接合面は不陸調整を行うこと。
4. 上部工塗装工の前に当て板補強を行うこと。
塗装面積増加分については、本当て板補強では、ボルトの増分のみを考慮する。
5. プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。
6. 現場孔明を先行し、その後に金属パテ材やボルト締めを行うこと。
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R 7 国道 1 7 号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図 (1 2)		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮尺	図 示	図面番号	14 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高嶋河川国道事務所		

法師大橋 補修図（１３） S=1:5

＜鋼橋支承工＞



設計条件

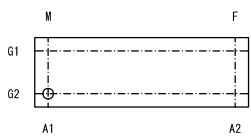
反力		
全反力	R	735 kN
死荷重	Rd	552 kN
橋軸方向水平力(移動時)	RH1f	110 kN
橋軸方向水平力(地震時)	RH1e	132 kN
橋軸直角方向水平力(地震時)	RH2e	132 kN
上揚力(地震時)	V	36 kN
移動量		
全移動可能量	e	110 mm
支点支持条件		
橋軸方向：可動	橋軸直角方向：可動	

材料表

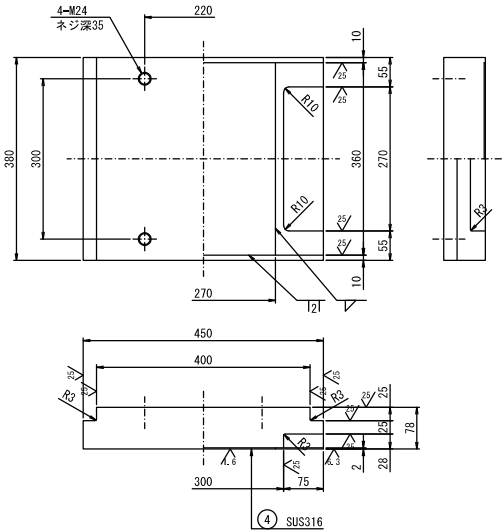
部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
①	上 寄	SM490A	1	89.9	
2	シールリング	クロロpreneゴム	1	0.1	
③	六角ボルト・座金	—	4	1.2	JIS B 1180 JIS B 1256
4	ステンレス板	SUS316	1	1.5	270x2x356
全重量				92.7	(kg)
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき					
JIS H 8641 HDZ177, HDZ149 (ボルト類)					
材料表部番の○印部品をめっきのこと。					

- 注 1) 現場実測後、寸法決定のこと。
- 注 2) 六角ボルト・座金は参考重量を示す。
- 注 3) 必要に応じて吊り用のネジ穴を設けてもよい。

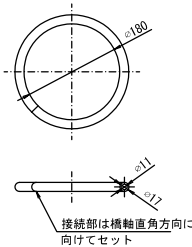
配置図



① ㊦ (25 / 6.3 / 1.6 /) SM490A



② ㊦ クロロpreneゴム



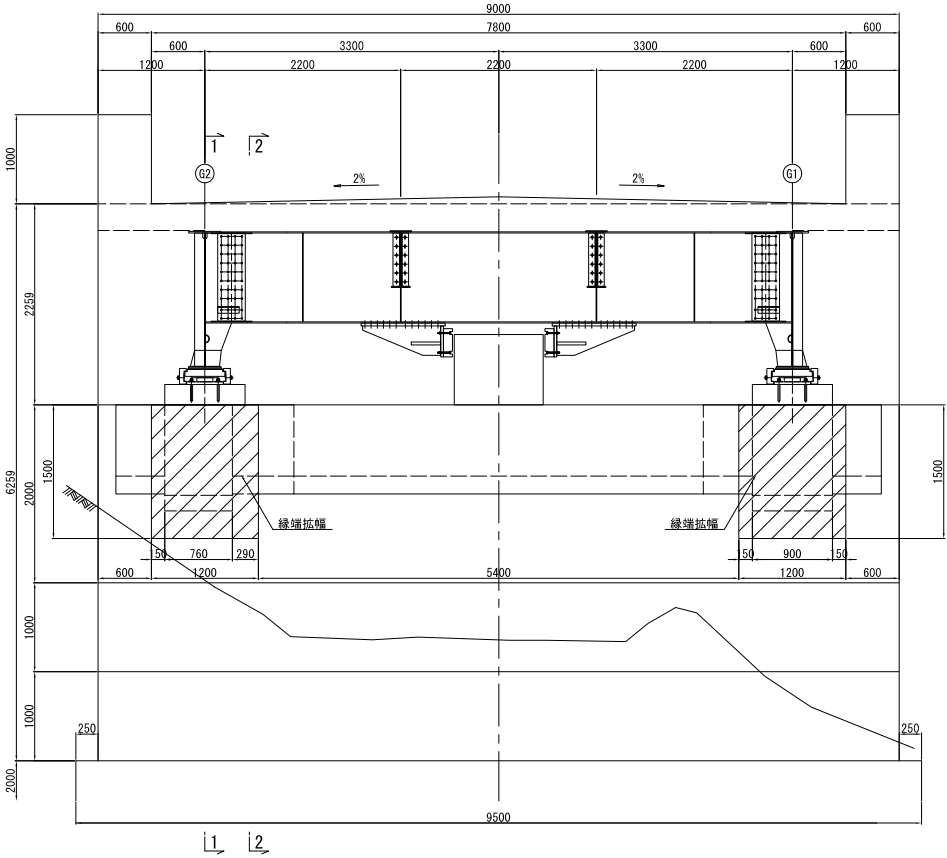
③ 六角ボルト M24 x 8.8
平座金付き

注記)
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

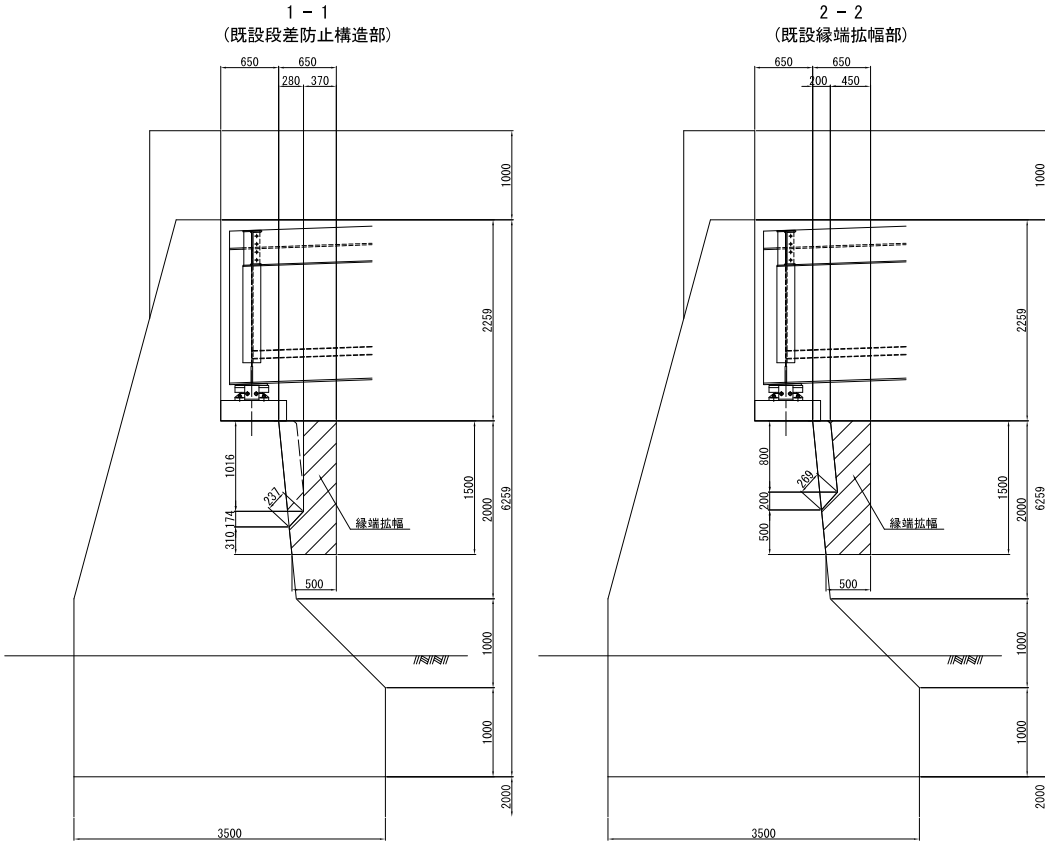
工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図（１３）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮尺	1:5	図面番号	15 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図 (14) S=1:30
＜落橋防止装置工 (1)＞

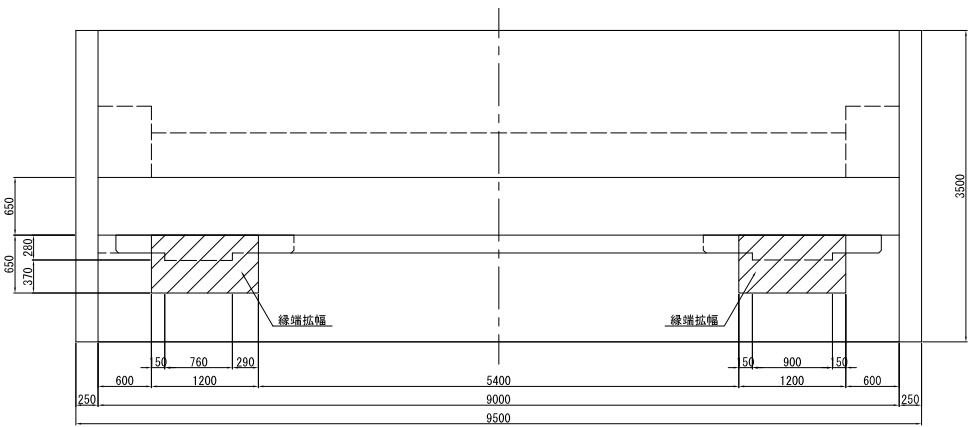
正面図



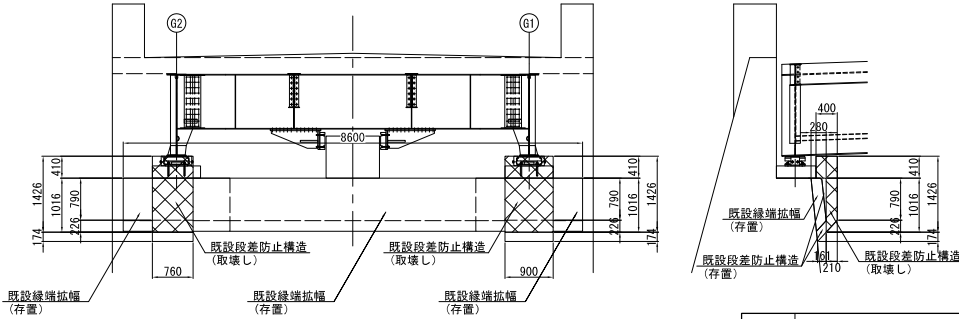
側面図



平面図



既設構造物取壊し詳細図 S=1:50

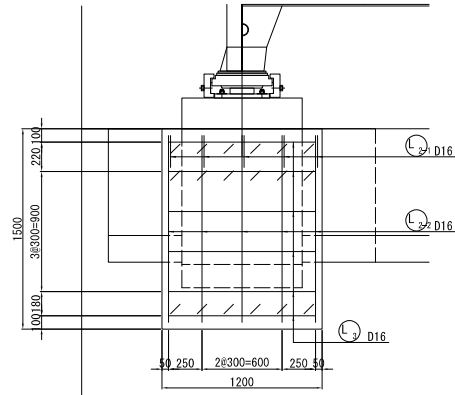


注記)
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

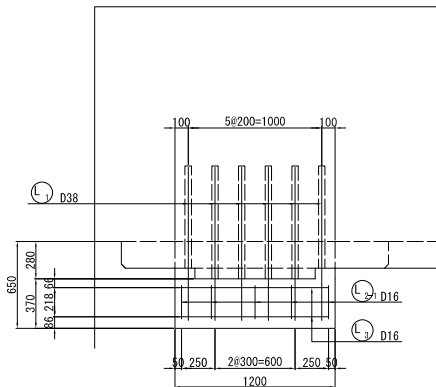
工事名	R7 国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図 (14)		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮尺	図 示	図面番号	16 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

＜落橋防止装置工（２）＞

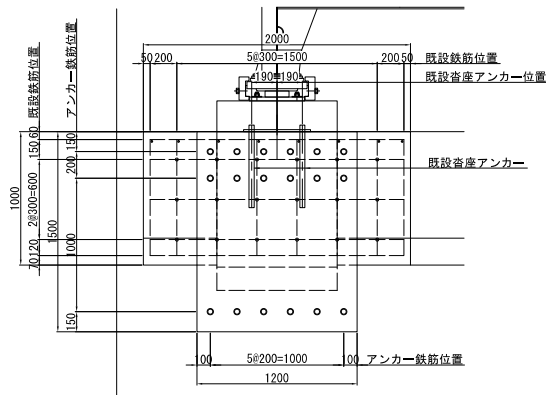
正面図



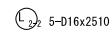
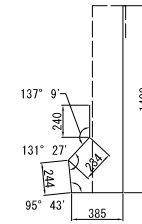
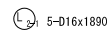
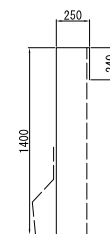
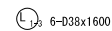
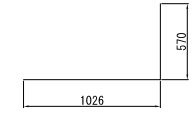
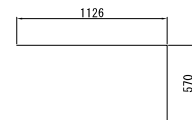
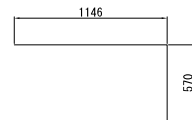
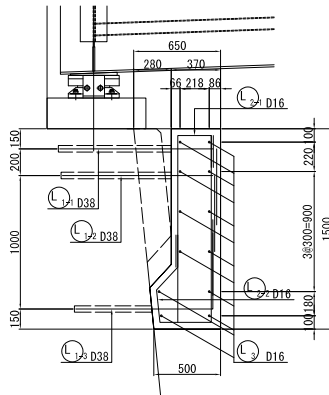
平面图



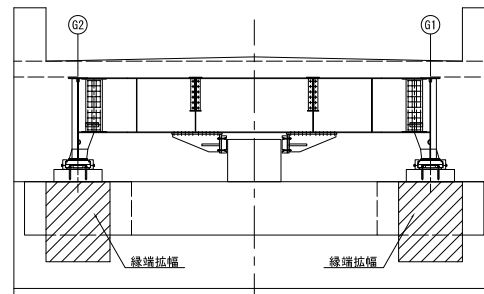
アンカー配置図



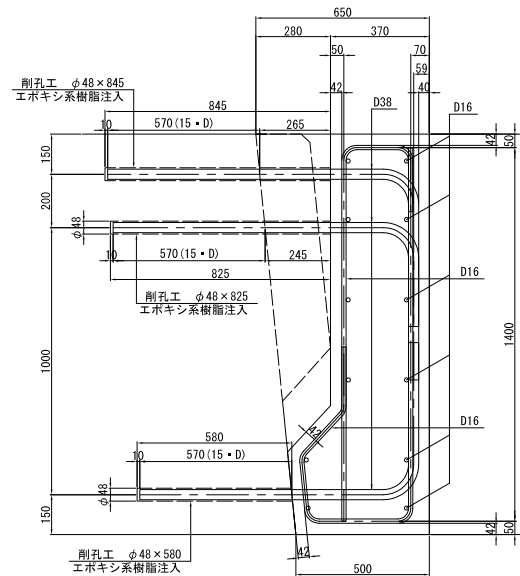
側面図



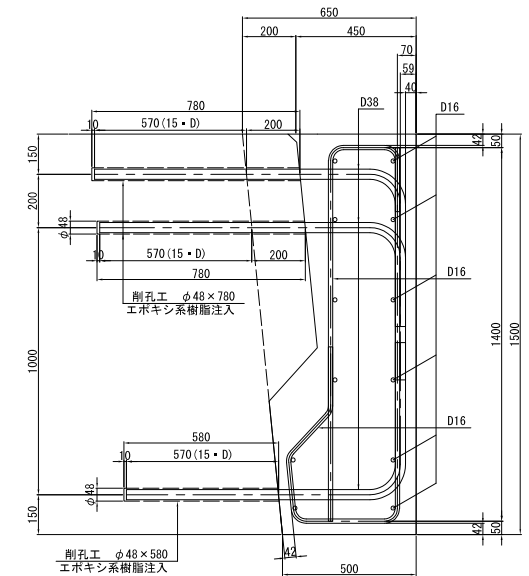
位置図



既設段差防止構造部



既設縁端拡幅部



鉄筋表

(1箇所当り)							
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
L1-1	D38	1720	6	8.95	15.39	92	┐
L1-2	"	1700	6	"	15.22	91	┐
L1-3	"	1600	6	"	14.32	86	┐
L2-1	D16	1890	5	1.56	2.95	15	┐
L2-2	"	2510	5	"	3.92	20	┐
L3	"	1100	12	"	1.72	21	┐
						325 kg	
箇所数							
D38				269 kg	×	2	= 538 kg
D16				56 kg	×	2	= 112 kg
合計				325 kg	×	2	= 650 kg

数量表 (落橋防止装置工(1)縁端拡幅)

項 目		規格等	単位	数量	備 考
チップング			m ²	2	
削孔(1)		削孔径48mm 削孔深さ845mm	孔	8	
削孔(2)		削孔径48mm 削孔深さ825mm	孔	8	
削孔(3)		削孔径48mm 削孔深さ780mm	孔	8	
削孔(4)		削孔径48mm 削孔深さ580mm	孔	12	
フタコ(落橋防止)		D38	本	36	
縁端処理			箇所	2	

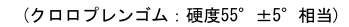
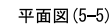
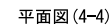
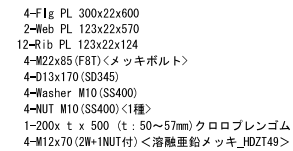
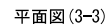
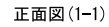
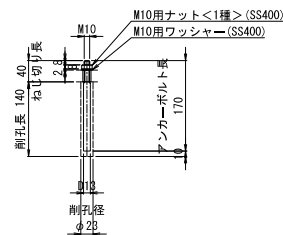
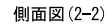
注記)

1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ とする。
2. 鉄筋の材質はSD345を使用する。
3. 図面は竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
4. 新旧コンクリート境界面は全て表面処理を行うこと。
5. コンクリートの打設時は、既設コンクリート面を湿潤状態にすること。
6. アンカー割入箇所は既設探索を行い既設鉄筋を損傷させないこと。

補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図(15)		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮尺	図 示	図面番号	17 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

S=1:10

数量表（落橋防止装置工(2)段差防止） (2箇所当り)

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスクリューはJIS3Rとする。
3. 特記なきすみ肉ラップサイスは全て57mmとする。
4. 部材は全て溶融亜鉛めき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZ177とする。
また、アンカーボルトは切り部及びアンカーボルトのナット類はHDZ149とする。
5. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。

補修箇所は現場にて確認すること。

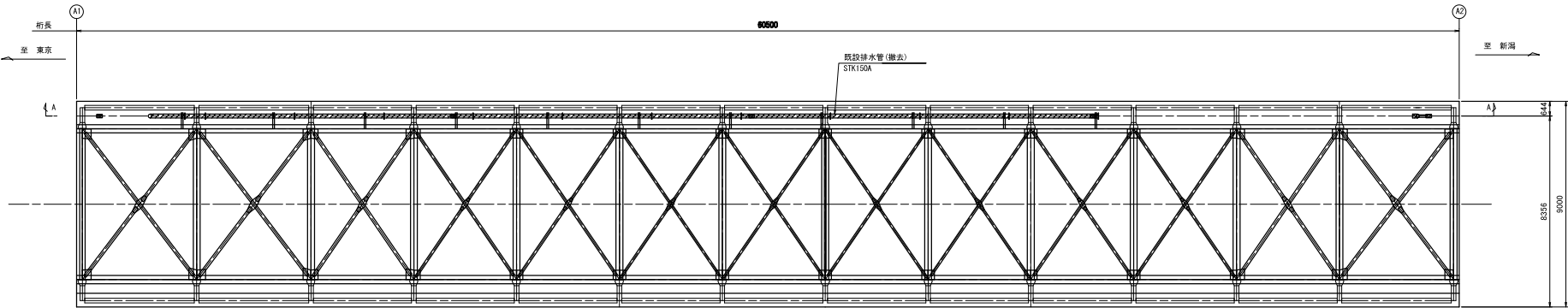
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図面名	法師大橋 補修図 (16)		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮尺	図 示	図面番号	18 / 30
会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

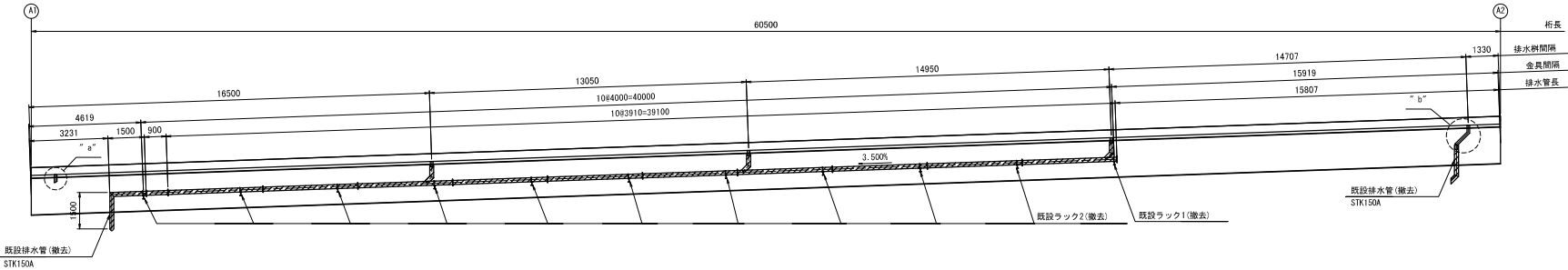
法師大橋 補修図（１７）

<排水施設工（１）>

現況図 S=1:100

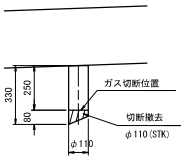


A-A S=1:100



A1橋台側既設排水管切断図 S=1:15

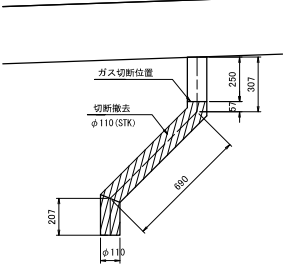
“a”部詳細



撤去材料:
排水管1組当り (撤去数:1組)
1-STK φ110x80 (STK400)

A2橋台側既設排水管切断図 S=1:15

“b”部詳細



撤去材料:
排水管1組当り (撤去数:1組)
1-STK φ110x954 (STK400)

排水管 撤去数量表

(1橋当り)

種 別	規格・形状	単位	数量	備 考
排水管	STK-φ110	m	1	
	STK-150A	m	48	
鋼材重量	鋼板 S5400	kg	100	
	H S5400	kg	99	
	合計	kg	199	
	BN W20 x 55	組	66	SS400 2冊付

注記)
1. 既設構造物寸法・形状・対象範囲は工事に
先立ち、再計測・再確認を必ず実施し
工事に反映すること。
2. 特記なき材質は全てSS400とする。

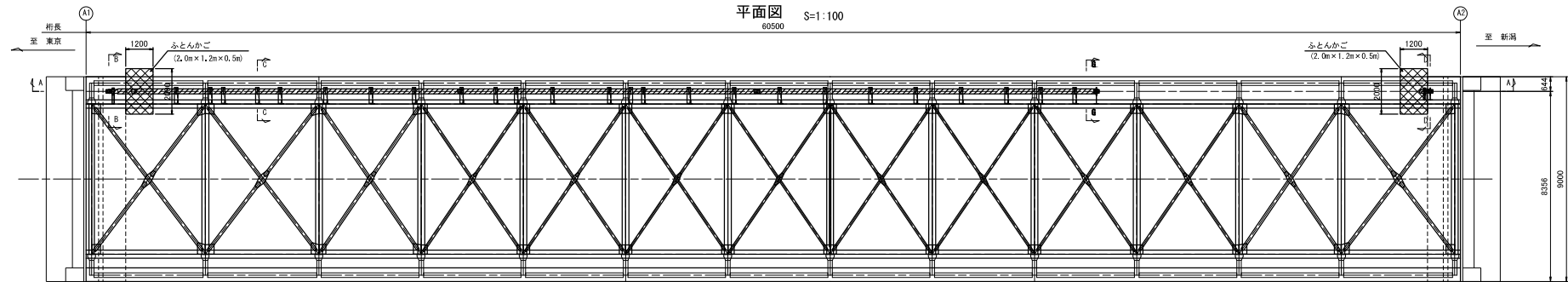
注記)
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工 事 名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（１７）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	図 示	図面番号	19 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

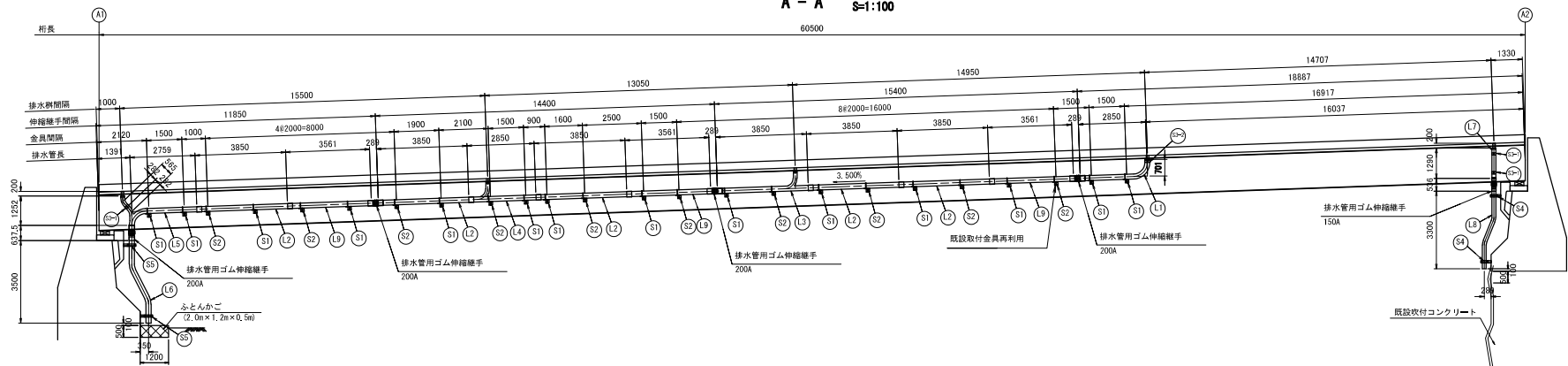
法師大橋 補修図 (1 8)

<排水施設工 (2) >

平面図 S=1:100
60500



A - A S=1:100
60500



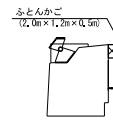
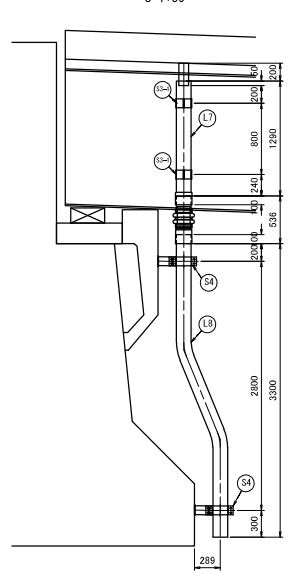
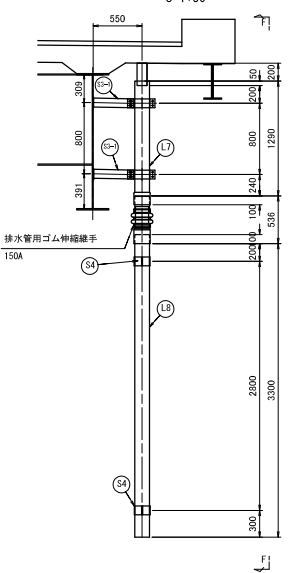
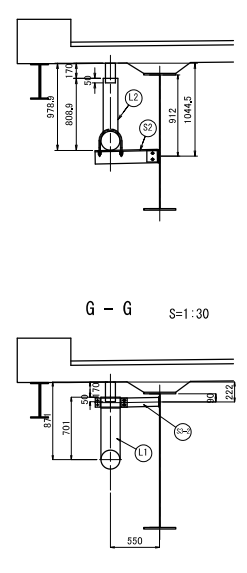
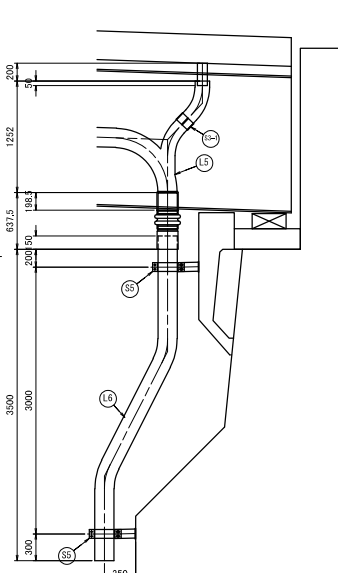
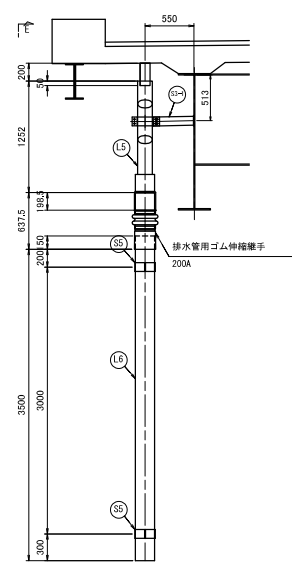
B - B S=1:30

E - E S=1:30

C - C S=1:30

D - D S=1:30

F - F S=1:30



注記)
1. 既設構造物寸法・形状・対象範囲は工事に
先立ち、再計測・再確認を必ず実施し
工事に反映すること。

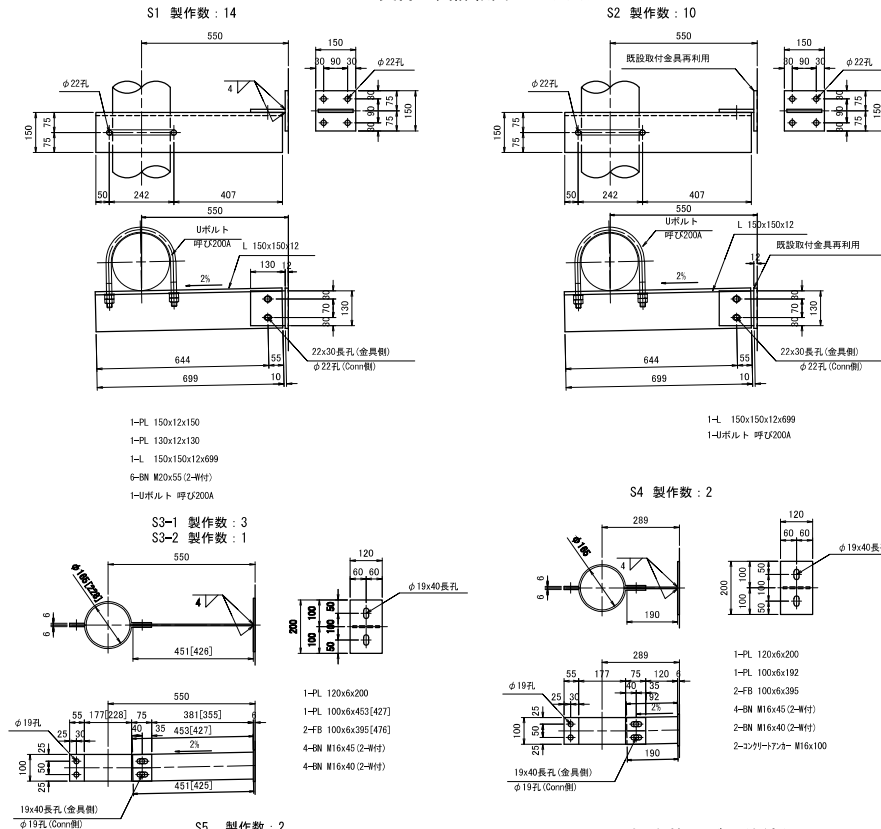
工 事 名	R 7 国道 1 7 号法師大橋橋梁補修工事
図 面 名	法師大橋 補修図 (1 8)
作成年月日	令和 8 年 1 月
縮 尺	図 示 図面番号 20 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント
事務所名	国土交通省 高嶋河川国道事務所

注記)
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

法師大橋 補修図 (1 9)
＜排水施設工 (3)＞

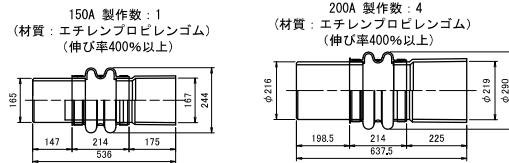
支持金具詳細図

S=1:10



排水管用ゴム伸縮継手

S=1:10



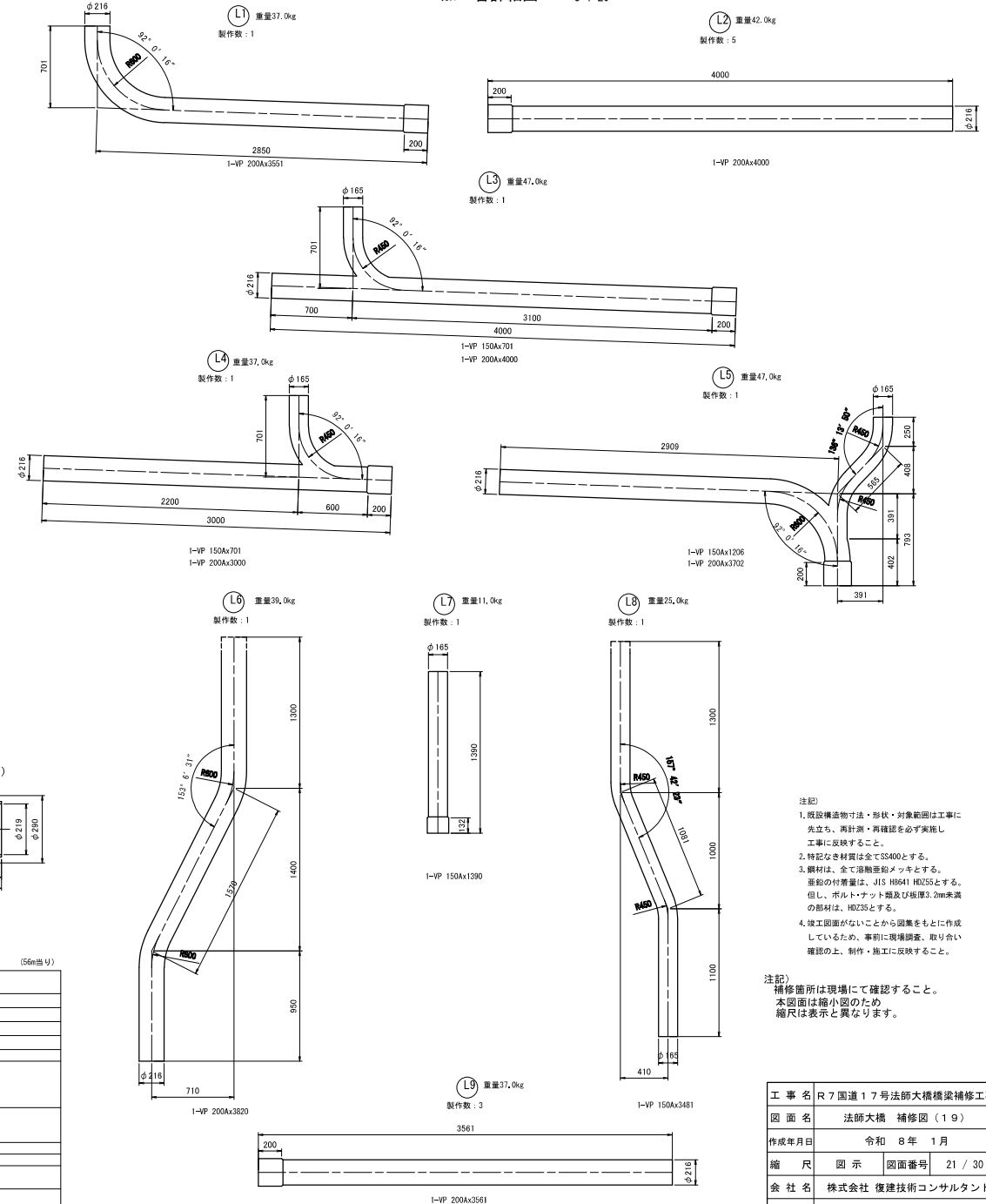
排水管 取付数量表

(56m当り)

種 別	規格・形状	単位	数量	備考
直管	VP-150A	m	1	
	VP-200A	m	38	
曲管	VP-150A	m	6	※L6, L8は各1本製作
	VP-200A	m	11	※L1, L3, L4, L5は各1本製作
排水管路延長		m	56	
鋼材重量	鋼板 S5400	kg	73	溶融亜鉛メッキH6255
	L S5400	kg	456	
	FB S5400	kg	32	
	合計	kg	563	
普通ボルト	M20 × 55	組	84	SS400 2割付
	BN M16 × 45	組	32	
	M16 × 40	組	24	
	UB M20 呼び200A	組	24	SS400
アンカーボルト	ANC M16 × 100	組	8	SS400
	150A 個	1	1	エチレンプロピレンゴム
伸縮継手	200A 個	4	4	
ふとんかご	3,2 13×50×120cm 中詰材 割変石 150~200mm	個	2	吸出し防止材含む

加工管詳細図

S=1:20



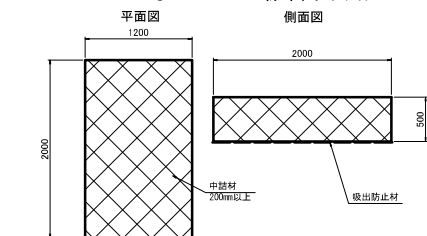
- 注記)
1. 既設構造物寸法・形状・対象範囲は工事に先立ち、再計測・再確認を必ず実施し、工事に反映すること。
 2. 特記なき材質は全てSS400とする。
 3. 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキとする。
亜鉛の付着量は、JIS H8641 H6255とする。
但し、ボルト・ナット類及び板厚3.2mm未満の鋼材は、H6235とする。
 4. 竣工図面がないことから図案をもとに作成しているため、事前に現場調査、取り合い確認の上、制作・施工に反映すること。

注記)

補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

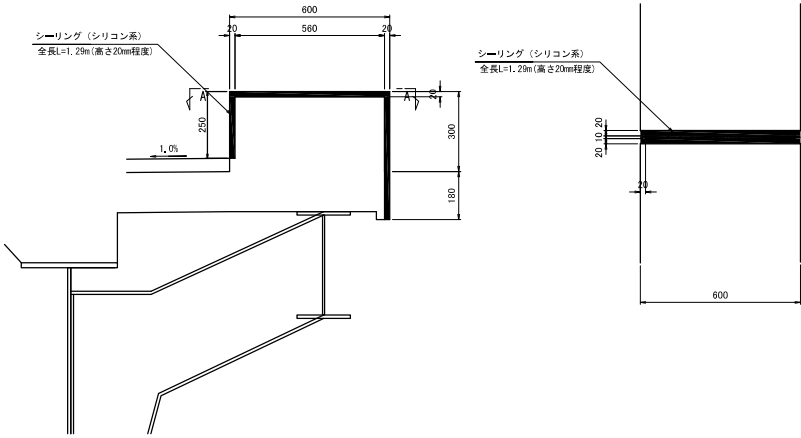
ふとんかご 標準図

S=1:30



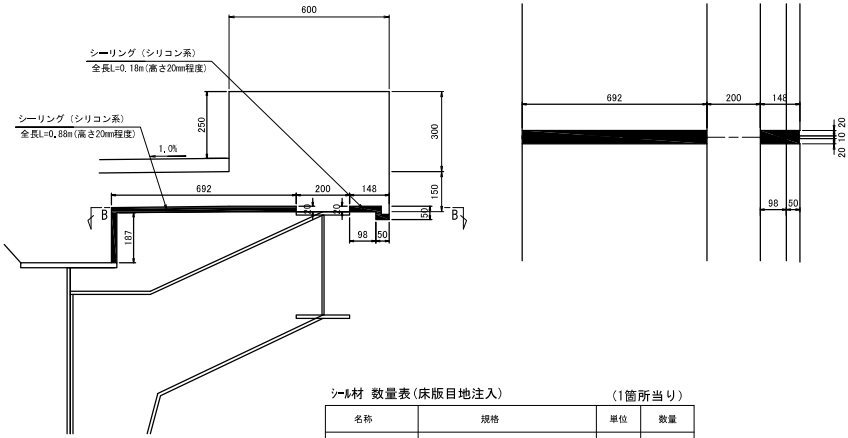
法師大橋 補修図（２０）
<橋梁地覆補修（１）>

地覆目地注入工図 S=1:10



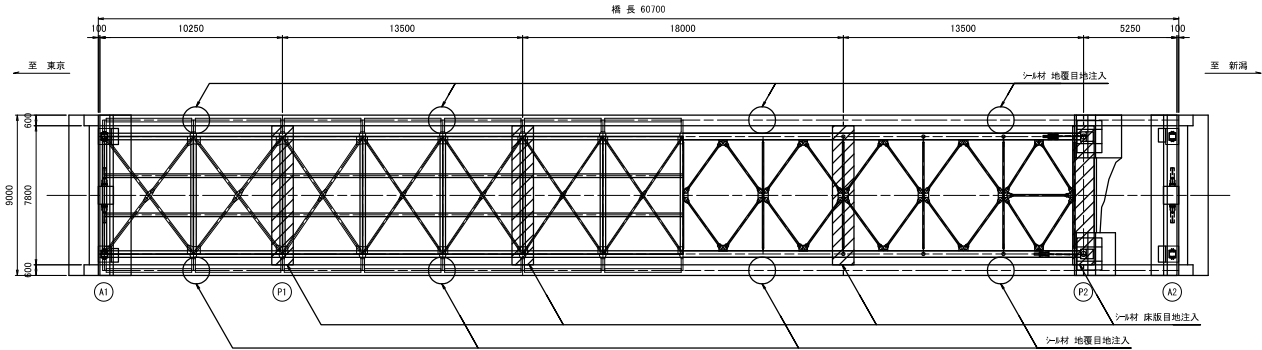
ｼｰﾙ材 数量表(地覆目地注入) (1箇所当り)			
名称	規格	単位	数量
既設目地撤去工	0.03×0.02	m ³	0.03
ｼｰﾘﾝｸﾞ材設置工		m	1.29
ｼｰﾘﾝｸﾞ材数量	シリコン系 (JIS A 5758の耐久性能区分903000に適合)	ℓ	0.77

床版目地注入工図 S=1:10



ｼｰﾙ材 数量表(床版目地注入) (1箇所当り)			
名称	規格	単位	数量
既設目地撤去工	0.03×0.02	m ³	0.02
ｼｰﾘﾝｸﾞ材設置工		m	1.06
ｼｰﾘﾝｸﾞ材数量	シリコン系 (JIS A 5758の耐久性能区分903000に適合)	ℓ	0.64

配置図 S=1:150



ｼｰﾙ材 数量表 (15m当り)			
名称	規格	単位	数量
既設目地撤去工	0.03×0.02	m ³	0.29
ｼｰﾘﾝｸﾞ材設置工		m	14.56
ｼｰﾘﾝｸﾞ材数量	シリコン系 (JIS A 5758の耐久性能区分903000に適合)	ℓ	8.73

注記)
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

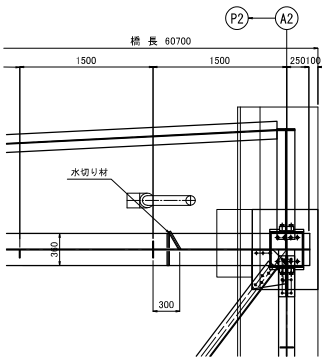
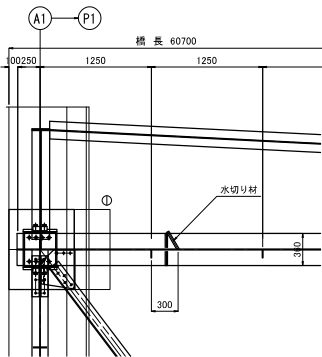
工 事 名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（２０）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	図 示	図面番号	22 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図 (2 1)

<橋梁地覆補修工 (2)>

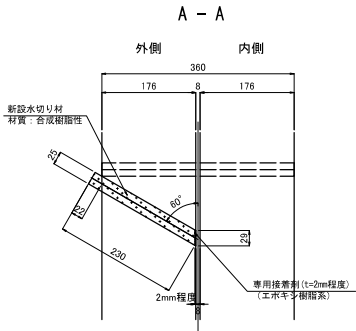
S=1:30

平面図



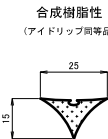
水切り材設置詳細図

S=1:5

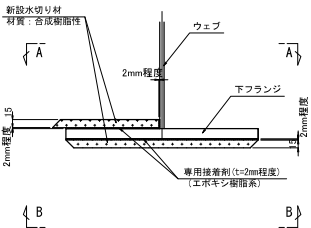
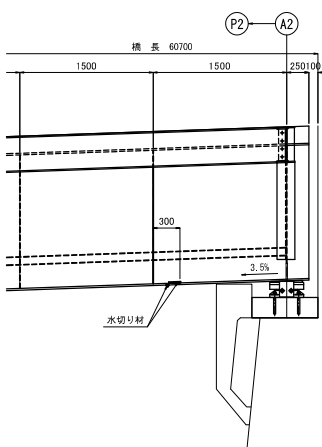
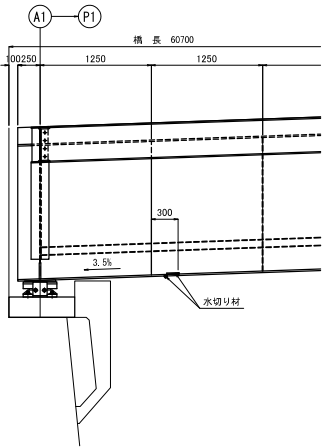


水切り材形状図

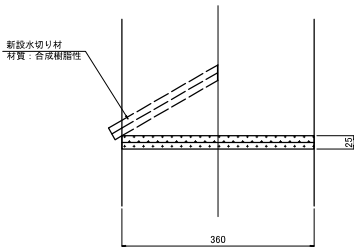
S=1:1



側面図



B - B



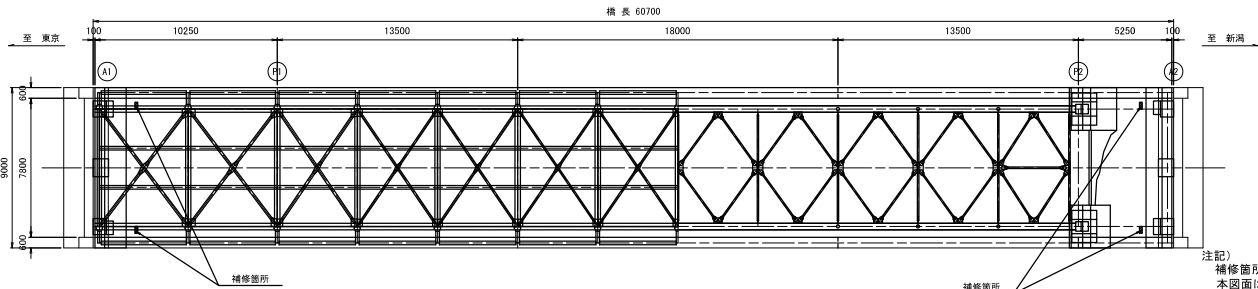
水切り 数量表

(1箇所当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
施工延長	0.230m + 0.360m	m	0.59	
水切り材	合成樹脂性	m	0.59	アイドリッップ同等品
表面処理		m ²	0.08	水洗い及び油膜洗浄
接着剤	エポキシ樹脂系	m ²	0.02	t=2mm

配置図

S=1:150

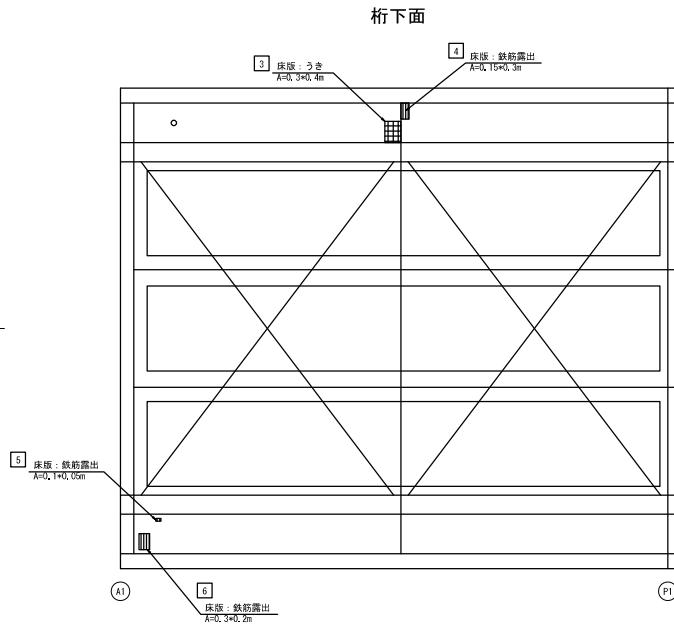


注記)

1. 施工前に必ず、現地計測を行って補修箇所、範囲形状等を確認し、現地状況と設計図面との整合を確認した上で施工すること。
2. 水切り材設置部の鋼板の表面処理は、塵・埃及び油膜を十分に除去した後に施工実施のこと。
3. 水切り材は、流束が飽和材に滞散しないように位置を決定すること。

工 事 名	R7 国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図 (2 1)		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	図 示	図面番号	23 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

S=1 : 50

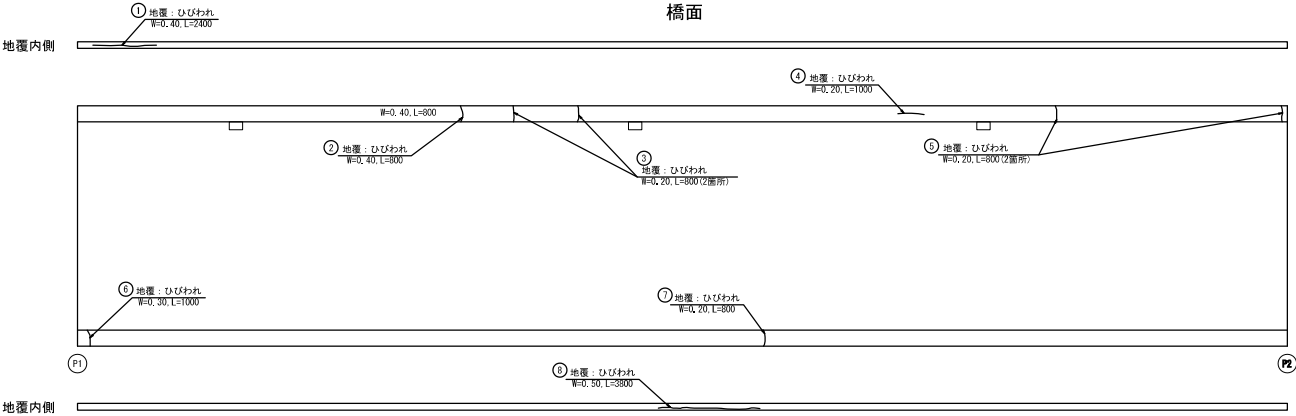


工 事 名	R7 国道 17 号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図 (22)		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	1:50	図面番号	24 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図（２３）
<ひび割れ補修工（２）、断面修復工（２）>

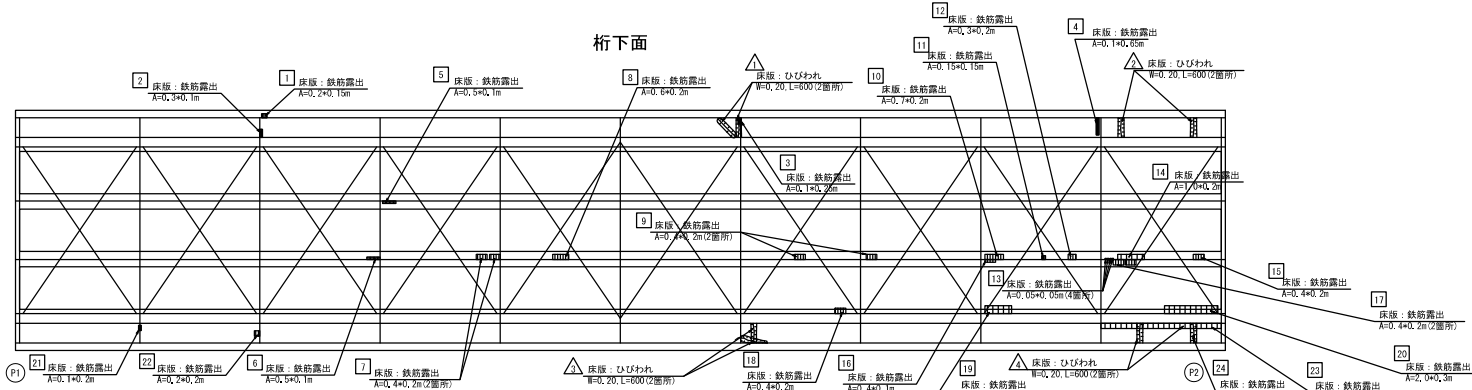
S=1:100

第2径間
橋面

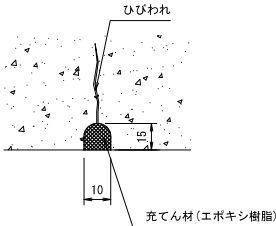


損傷の種類	表 示
ひびわれ	
新築	
鉄筋露出	
遊離石灰	
うき	
漏水	
その他	

桁下面



△ ひび割れ補修工
充てん工法
ひびわれ幅 w=1.0mm以上



数量表 (充てん工法) (4.8m当り)

	規 格	単 位	数 量	備 考
充てん材	クラック注入用	kg	0.86	

注記

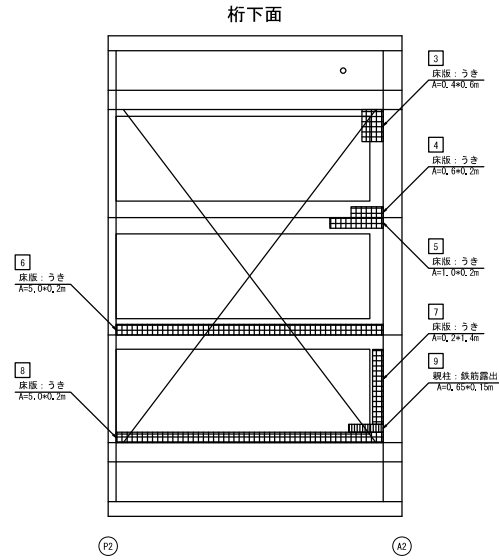
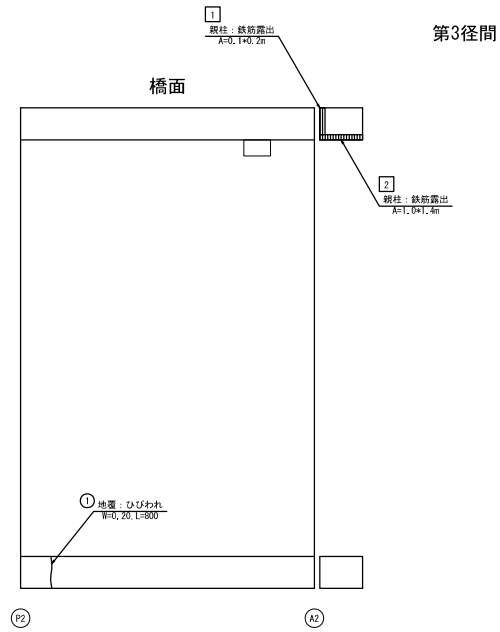
- この断面は、既存資料・現地検測により作成したものである。
- 施工の際は、現地再測を行い図面と照合のこと。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落し、補修を行うこと。
うきや鉄筋露出のはつりは最低30mm以上は行うこと。
- 鉄筋露出の場合は、ケレンと洗浄を行い防錆材を塗布したうえで断面修復を行うこと。
- 断面修復工のはつり深さは、現地調査を行い使用すること。
- カット=工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意する事。

注記)

補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

工 事 名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（２３）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	1:100	図面番号	25 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図（24） S=1:50
<ひび割れ補修工（3）、断面修復工（3）>



損傷の種類	表 示
ひびわれ	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
うき	
湧水	
その他	

注記

- この断面は、既存資料・現地検測により作成したものである。
- 施工の際は、現地再測を行い図面と照合のこと。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落し、補修を行うこと。
うきや鉄筋露出のはつりは最低30mm以上は行うこと。
- 鉄筋露出の場合は、ケレンと洗浄を行い防錆材を塗布したうえで断面修復を行うこと。
- 断面修復工のはつり深さは、現地調査を行い使用すること。
- カット=工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意する事。

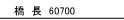
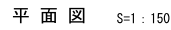
注記)

補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

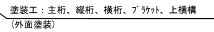
工 事 名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（24）		
作成年月日	令和 8 年	1 月	
縮 尺	1:50	図面番号	26 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

＜橋梁塗装工（１）＞

橋長 60700



S=1:100



1. 製剤中は、必ず現物地味を行い、製剤状況と設計面の適合性を確認し上で、製作すること。
2. 原則としてプラモデル製とすると、発注時との協議の上では、ローラーに変更も可能。
3. プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当年度を行うこと。
4. 上塗り色番号は発注者と受注業者が現地合いのうえ、色見本原に現物上塗り色を合わせて決定すること。
5. 塗膜剥離試験の判定にあてては事前剥離試験を実施しうえで材料や塗料量を設定すること。
6. 剥離試験を行う候補は報告書参照のこと。

工 事 名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（25）		
作成年月日	令和 8年 1月		
縮 尺	図 示	図面番号	27 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国道交通省 高崎河川国道事務所		

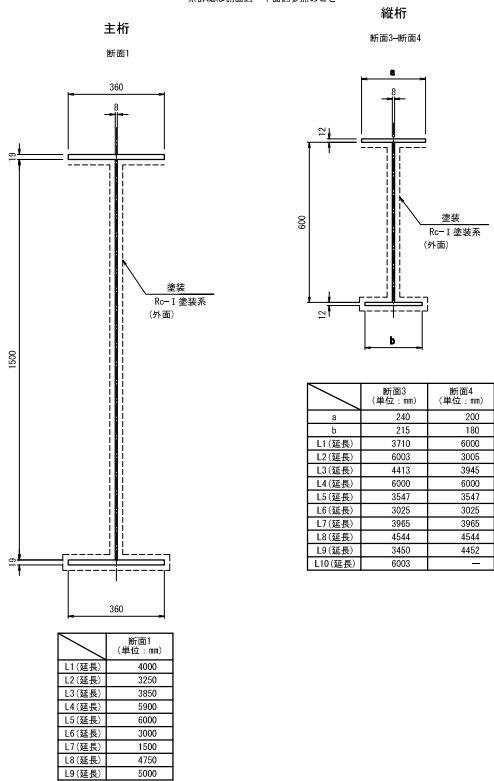
注記)
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

法師大橋 補修図（２６）
＜橋梁塗装工（２）＞

部材断面・延長図

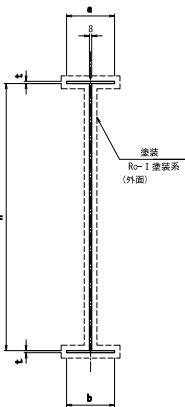
S=1：10

※詳細は側面図・平面図参照のこと



横桁断面

断面5-断面10

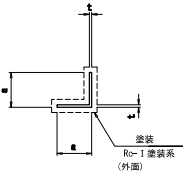


	断面5 (単位：mm)	断面6 (単位：mm)	断面7 (単位：mm)
a	180	240	200
b	180	210	200
t	8	12	8
h	1000	1000	870
L1(延長)	1300	3400	1300
L2(延長)	6000	—	6000

	断面8 (単位：mm)	断面9 (単位：mm)	断面10 (単位：mm)
a	300	200	285
b	265	200	250
t	14	8	14
h	870	870	870
L1(延長)	3400	1300	3400
L2(延長)	—	6000	—

上横構

断面13-断面16

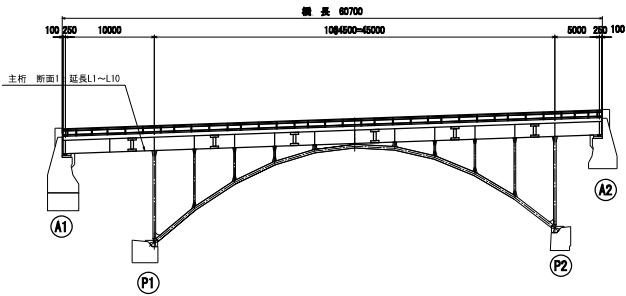


	断面13 (単位：mm)	断面14 (単位：mm)	断面15 (単位：mm)	断面16 (単位：mm)
a	130	130	100	90
t	9	9	10	10
L1-1(延長)	7820	7480	7540	7550
L1-2(延長)	3769	3620	3683	3815
L1-3(延長)	3793	3640	3693	3807

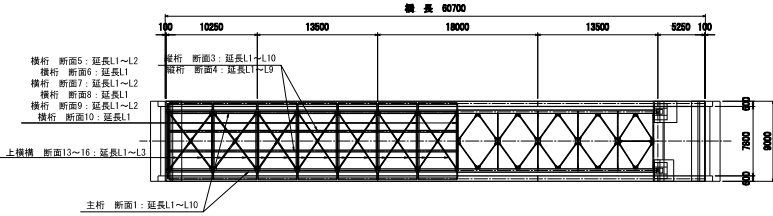
部材別塗装位置図

S=1：300

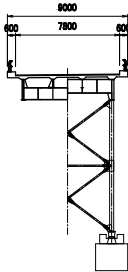
側面図



平面図



断面図 S=1:200



注記)

- 製作前は、必ず現地実測を行い、現地状況と設計図面の整合性を確認した上で、製作すること。
- 原則はスプレー塗装とするが、劣化等との協議のうえで、はけ、ローラーに変更も可能。
- 各部材のL1～の延長は、数量計算書に添付している施工要領参照のこと。
- プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。
- 上塗り色番号は発注者と受注業者が現地立ち合いのうえ、色見本図にて現場上塗り色と合わせて決定すること。
- 塗装剥離剤の選定にあたっては事前に剥離試験を実施したうえで材料の塗布量を決定すること。剥離試験を行う様子は報告書参照のこと。

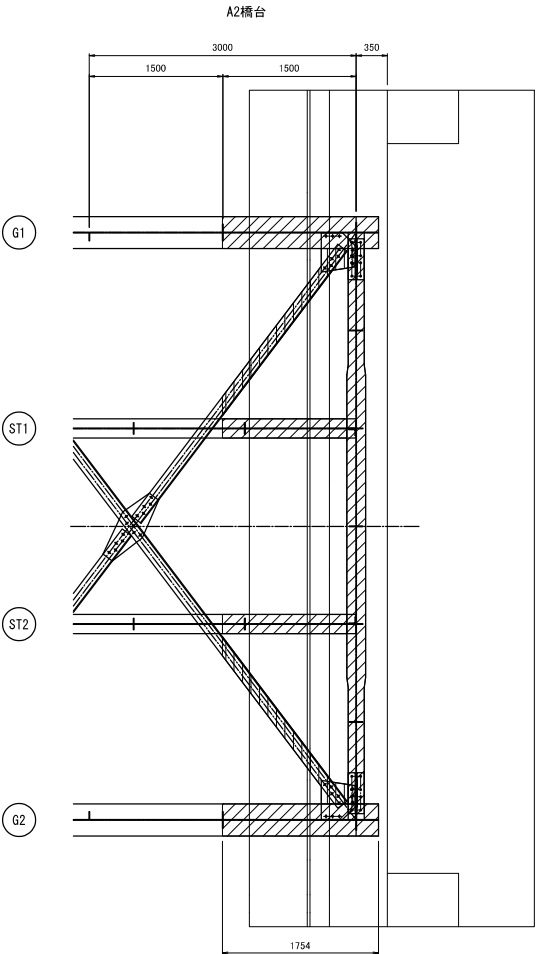
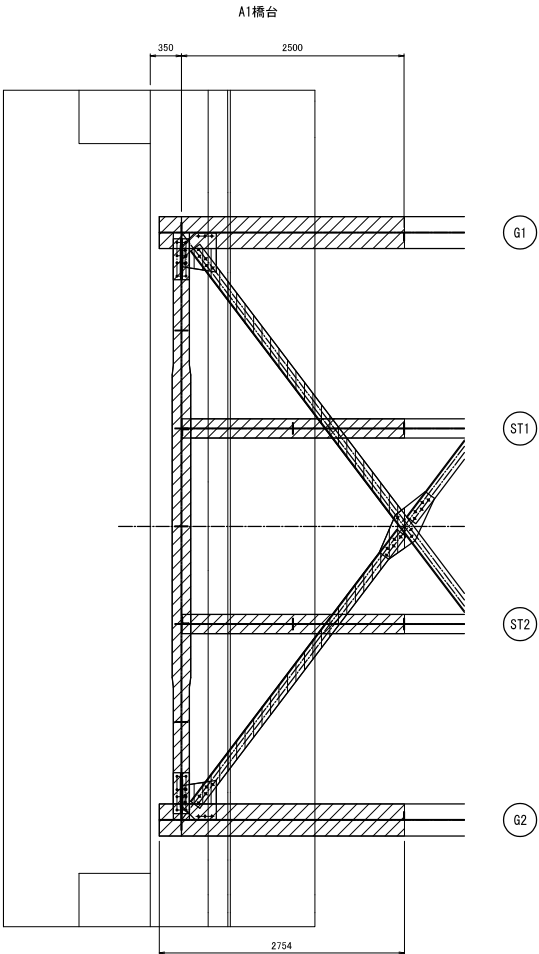
工 事 名	R7 国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（２６）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	図 示	図面番号	28 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国道交通省 高嶋河川国道事務所		

注記)

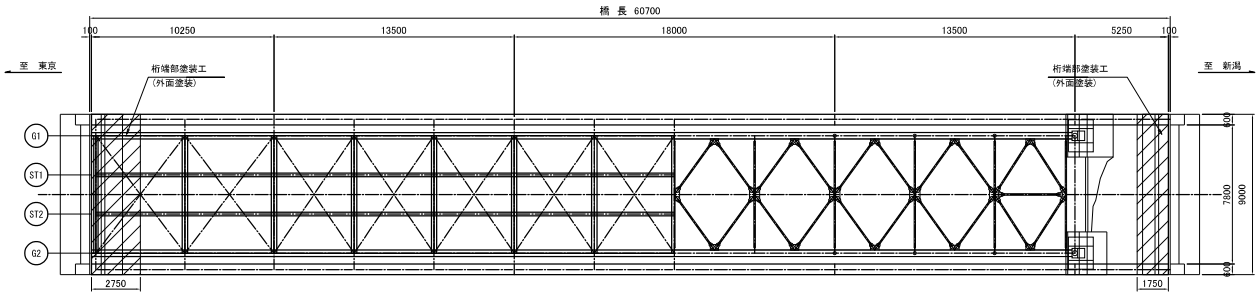
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

法師大橋 補修図（２７）
＜橋梁塗装工（３）＞

塗装範囲 S=1:30



平面図 S=1:150



- 注記)
1. 桁端部重防食塗装（Ro-1）範囲を示す。
 2. 製作前は、必ず現地実測を行い、現地状況と設計図面の整合性を確認した上で、製作すること。
 3. プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。

注記)

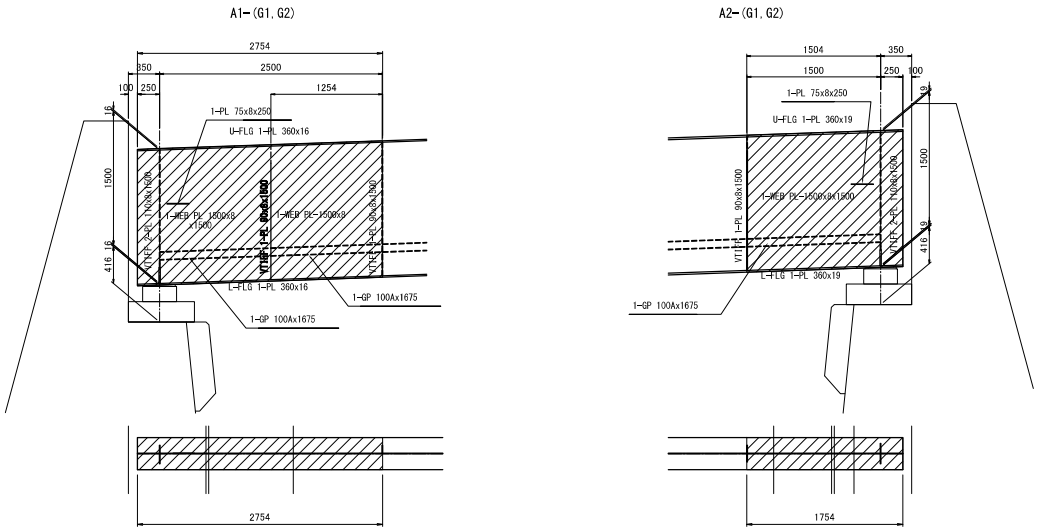
補修箇所は現場にて確認すること
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

増設範囲は、橋台天端外側の第1垂直補剛材までの範囲とした
※設計要領第2集橋梁保全編
※道路橋の耐久性の信頼性向上に関する研究

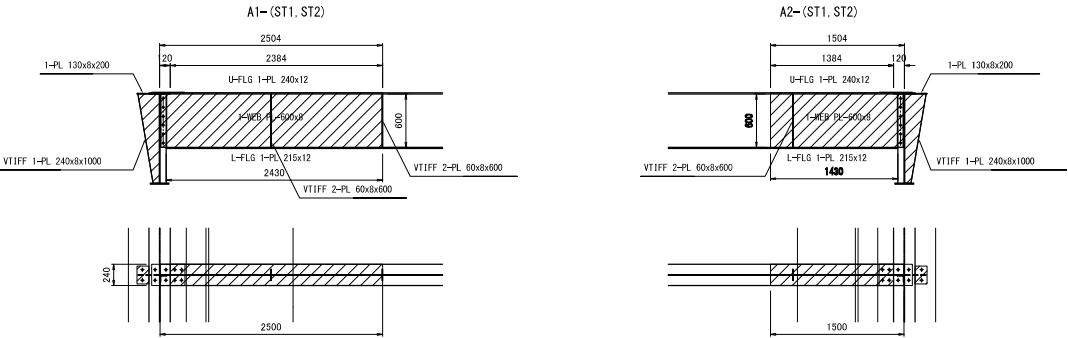
工 事 名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事		
図 面 名	法師大橋 補修図（27）		
作成年月日	令和 8 年 1 月		
縮 尺	図 示	図面番号	29 / 30
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

法師大橋 補修図（２８）
<橋梁塗装工（４）>

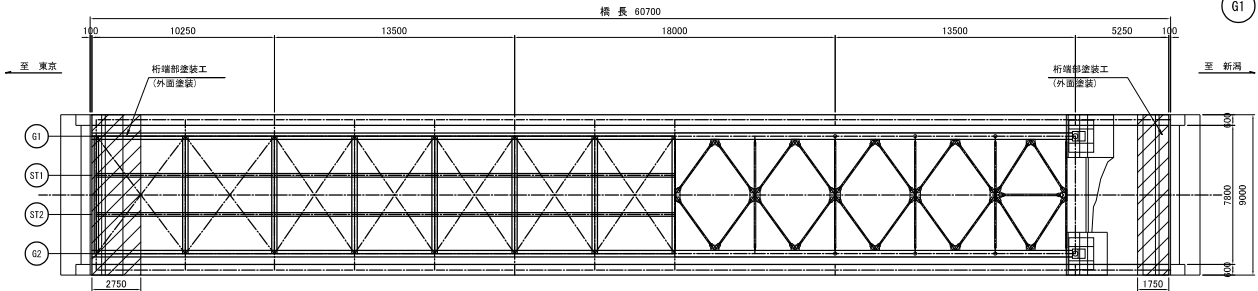
主桁 S=1:30



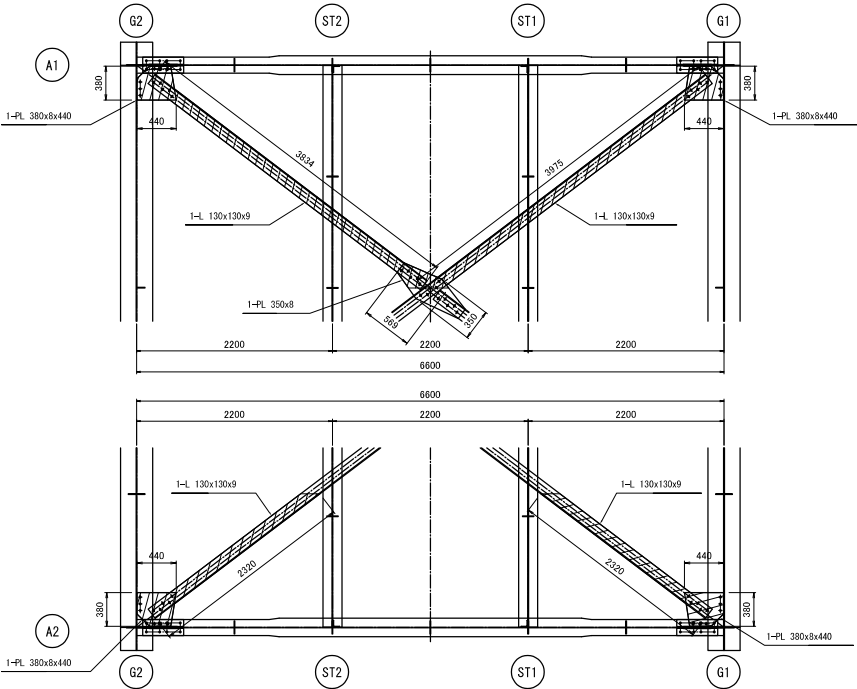
縦桁 S=1:30



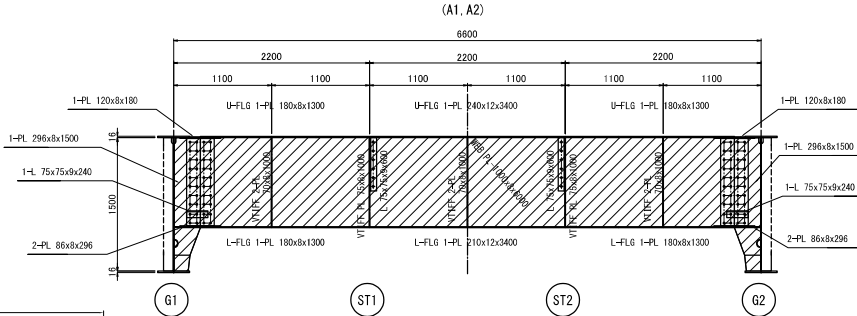
平面図 S=1:150



上横構 S=1:30



端横桁 S=1:30



- 注記
1. 部材ごとの桁端部重防食塗装（R=1）範囲を示す。
 2. 製作前、必ず現地実測を行い、現地状況と設計図面の整合性を確認した上で、製作すること。
 3. プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。

注記
補修箇所は現場にて確認すること。
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります。

増設範囲は、橋台天端外側の第1垂直補剛材までの範囲とした
※設計要領第2集橋梁保全編
※道路橋の耐久性の信頼性向上に関する研究

工事名	R7国道17号法師大橋橋梁補修工事
図面名	法師大橋 補修図（28）
作成年月日	令和 8年 1月
縮尺	図示 図面番号 30 / 30
会社名	株式会社 復建技術コンサルタント
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所